

かわごえ生き物調査

活動報告書



川越市

【表紙の写真】

- ① . . . トウキョウダルマガエル
- ② . . . エナガ
- ③ . . . キンラン
- ④ . . . ツミ
- ⑤ . . . アマナ
- ⑥ . . . アオスジアゲハ
- ⑦ . . . クワガタムシ
- ⑧ . . . カンムリカイツブリ
- ⑨ . . . ニホンイタチ

かわごえ生き物調査 活動報告書

目次

1. 目的	4
2. 生き物調査概要	5
3. 調査結果	7
3-1. 指標種の調査結果	9
3-2. 希少種の調査結果	45
3-3. 注意すべき外来種の調査結果	59
4. 過去5年間のイベント開催状況	67
5. 参考文献・写真提供者一覧	69

1. 目的

本市では、平成28年3月策定の「第三次川越市環境基本計画及び川越市緑の基本計画（平成28年3月改定版）」において、生物多様性に関する調査、普及・啓発のため、多くの市民の方が本市の生き物に関心を持ち、知識を深め、生物多様性の保全に積極的に取り組むよう市民参加による生物調査を推進するとしております。

そのため、市民の方が川越市内に生息する動植物に親しみながら調査・観察することにより、市内の生物多様性の認識や自然環境の保全の意欲を高めるとともに、今後の環境データの収集・蓄積に資することを目的として、かわごえ生き物調査（以下「生き物調査」）を実施しました。

本報告は、平成29年度から令和3年度までの5年間における調査結果をとりまとめたものです。

平成27年9月、国連持続可能な開発サミットが開催され、令和12年に向けた国際社会全体のすべての人がそれぞれの立場から、目標を達成するために行動することが求められた計画である「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。同アジェンダでは、宣言に加え、169の関連ターゲットを伴う17の目標が掲げられました。

この目標が「持続可能な開発目標(SDGs)」であり、SDGsの達成に向けては、地方自治体を含めた幅広い主体が連携して取り組むことが重要です。

本報告書の作成は、この17の目標のうち、主に「15 陸の豊かさを守ろう」「17 パートナリシップで目標を達成しよう」に貢献するものです。



2. 生き物調査概要

1 調査期間

平成29年4月1日～令和3年10月31日

2 調査範囲

埼玉県川越市内全域

3 調査者

生き物調査員の皆さん

(1) 一般調査員

自然観察に関心のある小学生以上の市内在住、在学、在勤者で市に調査員登録をした方。

(2) 団体調査員

市内で活動し、市に調査員登録をしたNPO法人、任意団体、学校等の団体の方。

調査員数（令和3年10月31日現在）

- 一般調査員 26名
- 団体調査員 1団体

4 調査対象

身近な生き物50種、希少な生き物9種、注意すべき生き物8種の計67種を調査対象種（以下「指標種」）としました。また、指標種以外の生き物の報告も併せて受け付けました。

5 調査方法

川越市を12の地区に分けて、その中で確認できた指標種を報告書に記録します。発見した場所の地区番号や住所、近くにある建物等を記入します。

また、市内を1辺約1kmで141区画に区割りするメッシュ(※)を使用したメッシュコードによる報告も併せて受け付けました。

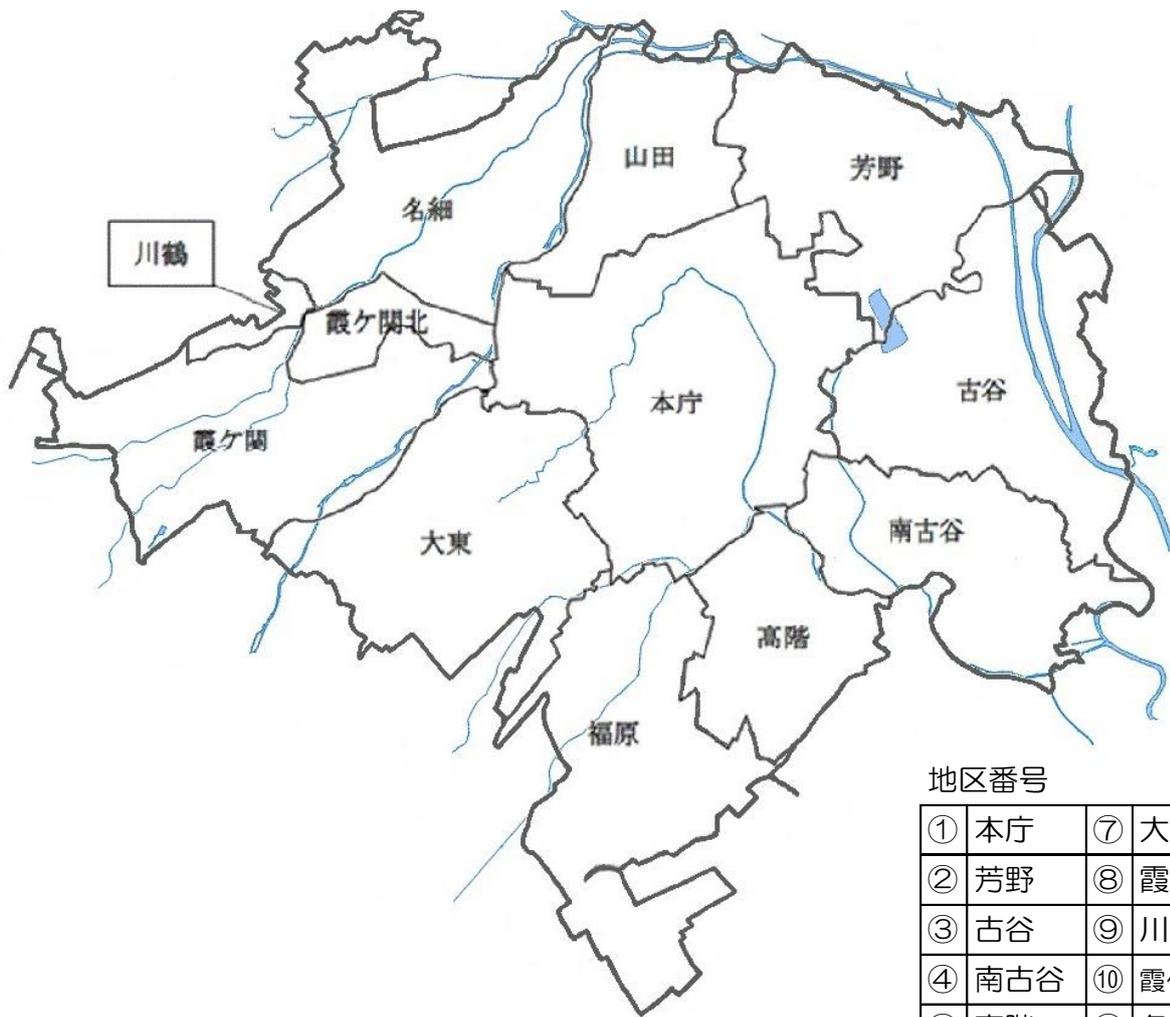
※ メッシュ（地域メッシュ）

緯度・経度に基づいて、地域を隙間なく網の目の区域に分けたもの。メッシュを識別するためのコード番号をメッシュコードと呼び、川越市では1辺を約1kmで区分けする第3次メッシュを採用している。



様式第2号						
かわごえ生き物調査報告書(月分)						表
提出日						
団体名・氏名						
	名前	発見地区	発見場所(住所等)	メッシュコード	発見年月日	備考
1	アゼムシロ					
2	アレチウリ					
3	オオフサモ					
4	オオフタクサ					
5	オギ					
6	カタハミ					
7	カントウタンボコ					
8	クチナシグサ					
9	ジシバリ					
10	シュンラン					

【地区図】



地区番号

① 本庁	⑦ 大東
② 芳野	⑧ 霞ヶ関
③ 古谷	⑨ 川鶴
④ 南古谷	⑩ 霞ヶ関北
⑤ 高階	⑪ 名細
⑥ 福原	⑫ 山田



メッシュコード

メッシュ

3. 調査結果

平成29年度から令和3年度までの5年間において、生き物調査員の皆さんからお寄せいただいた川越市内の生き物は

- ・指標種 67種（5,909件）
- ・指標種以外 1,517種（15,785件） 合計 1,584種（21,694件）となりました。

種名別の報告種数、報告件数は以下のとおりです。

5年間の報告種数

種名	指標種	指標種以外	全ての種
植物	24	812	836
鳥類	13	113	126
昆虫	18	351	369
クモ	1	31	32
爬虫類	4	5	9
両生類	2	5	7
哺乳類	3	5	8
その他	2	195	197
合計	67	1,517	1,584

5年間の報告件数

種名	指標種	指標種以外	全ての種
植物	1,666	10,695	12,361
鳥類	1,845	2,089	3,934
昆虫	2,050	2,093	4,143
クモ	78	85	163
爬虫類	177	21	198
両生類	43	84	127
哺乳類	24	272	296
その他	26	446	472
合計	5,909	15,785	21,694

かわごえ生き物調査 調査結果ランキング

たくさん見つかった植物

第1位	ヘクソカズラ	170件
第2位	セイヨウタンポポ	...	155件
第3位	オッタチカタバミ	...	148件



ヘクソカズラ



スズメ

たくさん見つかった鳥類

第1位	スズメ	260件
第2位	シジュウカラ	206件
	ヒヨドリ		
第3位	キジバト	190件

たくさん見つかった昆虫

第1位	モンシロチョウ	361件
第2位	ヤマトシジミ	331件
第3位	ナミアゲハ	266件



モンシロチョウ



※写真 環境省提供

オッタチカタバミ

あちこちで見つかった生き物

第1位	オッタチカタバミ	...	90メッシュ
第2位	モンシロチョウ	86メッシュ
第3位	ヤブガラシ	76メッシュ
	ツククサ		

3-1. 指標種の調査結果

市内における5年間の調査の結果、指標種は市内のほぼ全域で確認されました。

特にモンシロチョウ、ヤマトシジミは報告件数、メッシュ数ともに多くの情報が寄せられました。

生息地の多さを表すメッシュ数では、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、スズメなどが多い結果となりました。

一方、ホンドキツネ、ホンドタヌキ、ミゾカクシ、ニホンアカガエル、マルタニシなどの報告が比較的少ない結果となりました。

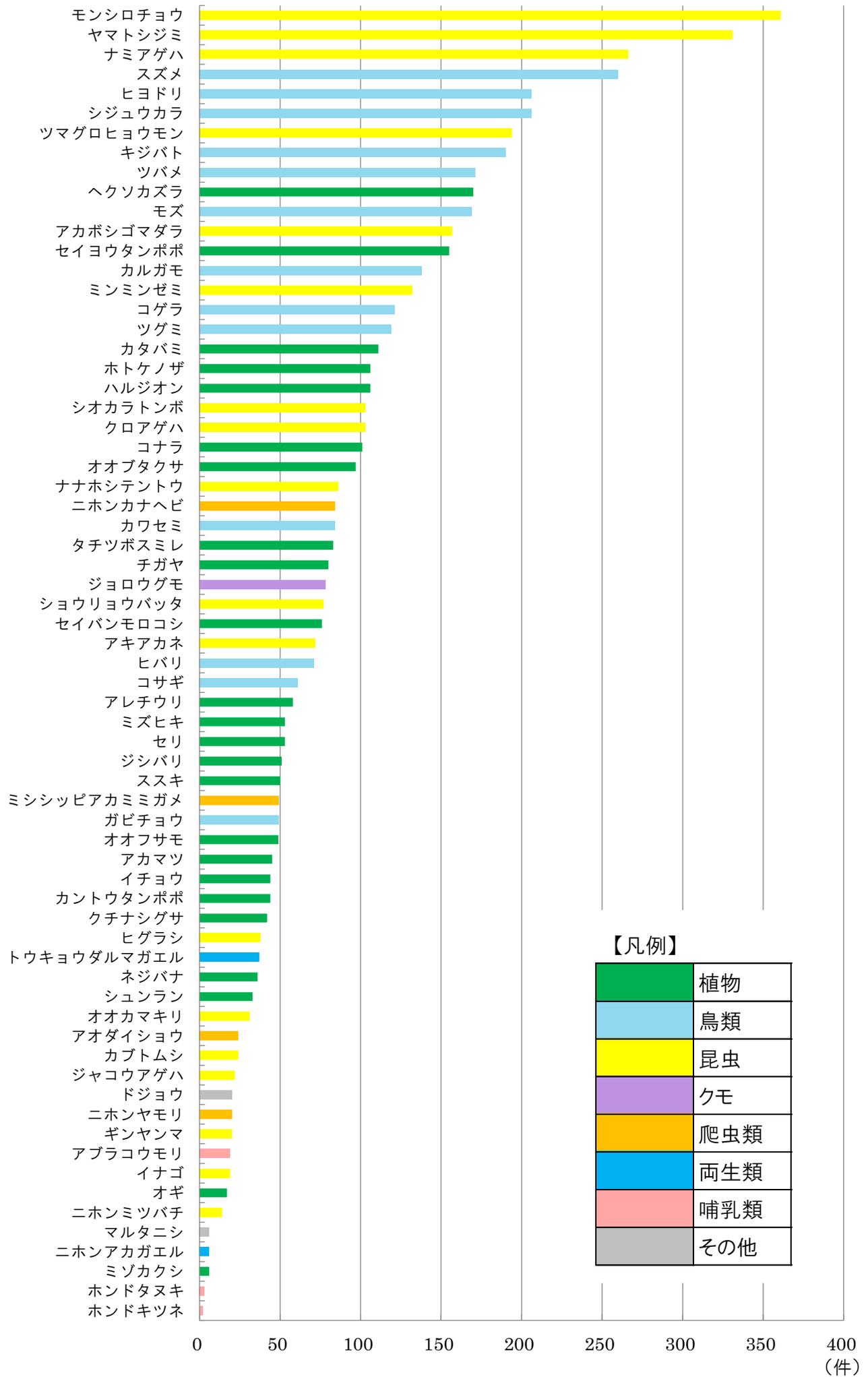
参考 指標種一覧

植物	鳥類	昆虫	爬虫類
アレチウリ 特	ガビチョウ 特	モンシロチョウ	ニホンカナヘビ
オオフサモ 特	カルガモ	ツマグロヒョウモン	ミシシippアカミミガメ
オオブタクサ	カワセミ	ジャコウアゲハ	ニホンヤモリ
オギ	キジバト	アカボシゴマダラ 特	アオダイショウ
カタバミ	コゲラ	ヤマトシジミ	4種
カントウタンポポ	コサギ	ナミアゲハ	両生類
クチナシグサ	シジュウカラ	クロアゲハ	トウキョウダルマガエル
ジシバリ	スズメ	シオカラトンボ	ニホンアカガエル
シュンラン	ツグミ	ギンヤンマ	2種
ススキ	ツバメ	アキアカネ	哺乳類
セイバンモロコシ	ヒバリ	カブトムシ	ホンドキツネ
セイヨウタンポポ	ヒヨドリ	ナナホシテントウ	ホンドタヌキ
セリ	モズ	ショウリョウバッタ	アブラコウモリ
タチツボスミレ	13種	イナゴ	3種
チガヤ		オオカマキリ	その他
ネジバナ		ヒグラシ	マルタニシ
ハルジオン		ミンミンゼミ	ドジョウ
ヘクソカズラ		ニホンミツバチ	2種
ホトケノザ		18種	
ミズヒキ		クモ	
ミゾカクシ(アゼムシロ)		ジョロウゲモ	
アカマツ		1種	
イチョウ			
コナラ			
24種			計 67種

希少な生き物 (埼玉県:レッドデータブック植物編・動物編 掲載種)

注意すべき生き物 (環境省:生態系被害防止外来種リスト 掲載種)

特 … 特定外来生物

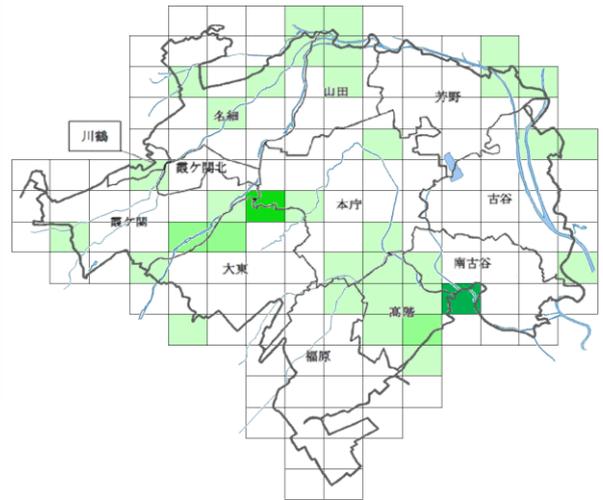


市内における指標種の報告件数



アレチウリ

緊急対策外来種



報告件数：58件 メッシュ数：36

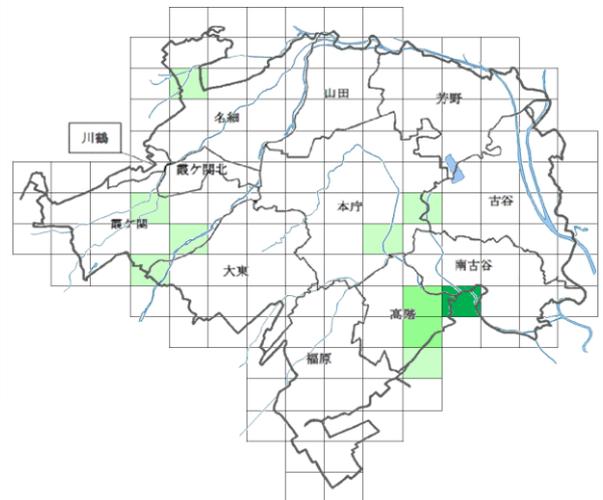
特徴

8～10月ごろに黄白色の花を咲かせる。北アメリカ原産で、茎の全長が数mから数十mに達する一年生（※1）の大形つる性植物（※2）。巻きひげを伸ばして荒地、河川敷などに生育する。土壌環境に対する適応性が高いことから、埋め立て地やゴミ集積地などにもしばしば大群落を形成する。



オオフサモ

緊急対策外来種



報告件数：49件 メッシュ数：10

特徴

6月ごろに小さな白い花を咲かせる。南アメリカ原産で、水面上の高さは20～30cm、茎の全長は1mに達する多年生（※3）の抽水植物（※4）。茎はやや赤紫色で、水中を横に這いながら枝分かれます。河川、池沼、水路、ため池などの浅い水域に生育する。寒さに強い。

※1：一年生（植物）…一年のうちに発芽し、花が咲き、種をつけ、枯れる植物。

※2：つる性植物…つるをもって地上を這ったり、他のものに巻き付いて伸びる植物。茎は直立できない。

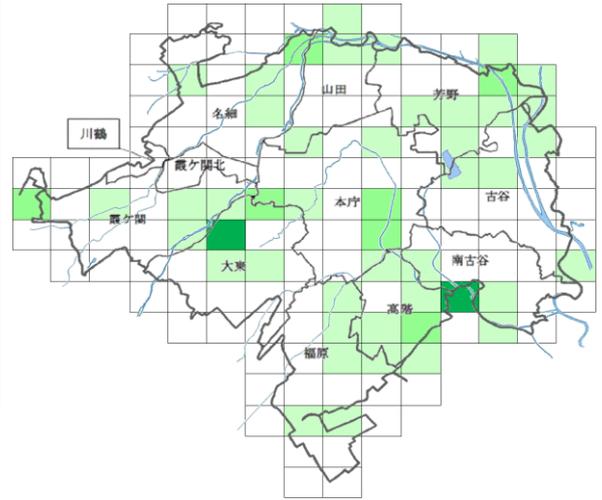
※3：多年生（植物）…複数年にわたって枯れず、毎年花を咲かせる植物。

※4：抽水植物…水辺に生え、根は水底の土壌にあるが、茎の一部や葉が空中に伸びる植物。



オオブタクサ

重点対策外来種



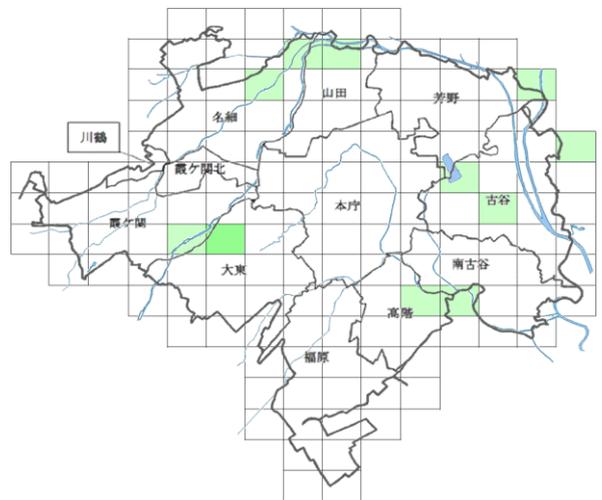
報告件数：97件 メッシュ数：48

特徴

7～10月ごろに小さな黄色い花を穂状（※1）に咲かせる。北アメリカ原産で、高さ1～3mの大形一年生植物。花粉症を引き起こす原因植物の一つで、風を利用して大量の花粉を飛ばす。荒地、河川敷などに生育する。



オギ



報告件数：17件 メッシュ数：11

特徴

8～10月ごろに白色の花を穂状に咲かせる。高さ1～2mの大形多年生植物。地下茎（※2）は地中を長く横に這い、1本ずつ茎を立てて大きな群落をつくり、ススキのような株立ち（※3）にならない。河川敷、水辺などの湿地に生育する。

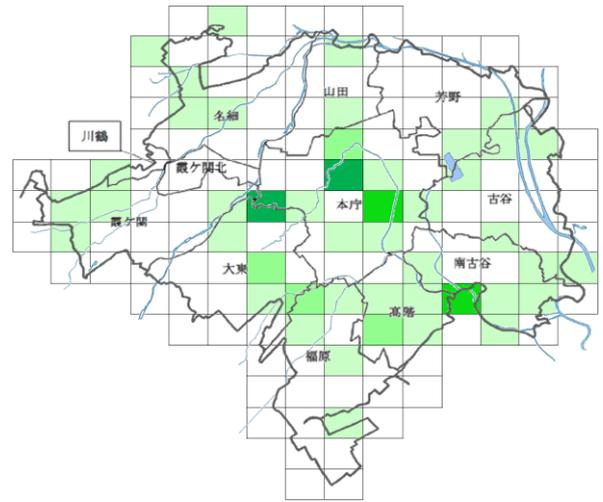
※1：穂状（すいじょう）…穂（ほ）のような形。

※2：地下茎（ちかけい）…地下にある茎。これが伸びて株を増やす。必要な栄養分を蓄えている。

※3：株立ち…茎の根元から芽が出て茎が何本も集まったような状態になったもの。



カタバミ



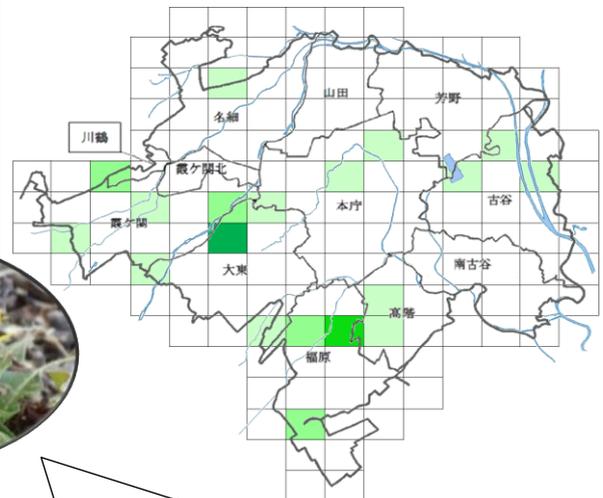
報告件数：111件 メッシュ数：47

特徴

4～10月ごろに黄色の花を咲かせる。高さ5～10cmの多年生植物。茎はよく枝分かれして地面を這うか斜めに立つ。葉の形は特徴的なハート形。庭先、道端などに生育する。葉が赤紫色のものをアカカタバミ、緑紫色のものをウスアカカタバミという。近年は茎が立ち上がるオッタチカタバミが増加している。



カントウタンポポ



報告件数：44件 メッシュ数：19

特徴

3～5月ごろに黄色の花を咲かせる。高さ10～30cmの多年生植物。他の在来種と同じように総苞片(※1)が反り返らない。関東周辺の道端や野原などに見られる在来のタンポポだが、外来のセイヨウタンポポに生息地を奪われつつある。

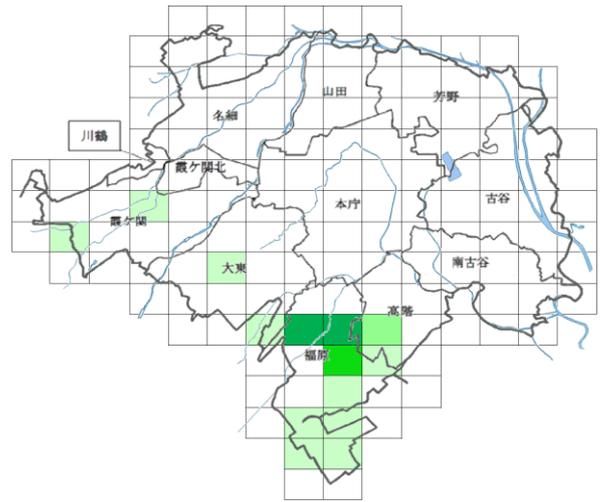
セイヨウタンポポ 総苞片が反り返る

※1：総苞片（そうほうへん）…花の根元部分を輪状に包む一枚一枚の葉。



クチナシグサ

準絶滅危惧 (NT)



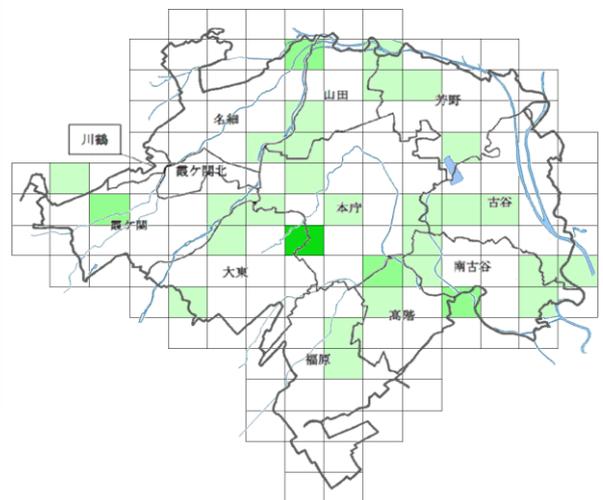
報告件数：42件 メッシュ数：14

特徴

4～5月ごろに小さな白い花を咲かせる。茎の全長が10～30cmの二年生(※1)の半寄生植物(※2)。夏に地に落ちた種子はそのまま越冬し、翌年発芽して苗をつくり、花を咲かせる。根は貧弱で細く、茎は地を這い根際で数本に分かれ株となる。落葉樹林の林床などに生育する。



ジシバリ



報告件数：51件 メッシュ数：30

特徴

4～7月ごろに黄色の花を咲かせる。高さ10～20cmの多年生植物。細長い茎を四方に伸ばして地面を這い、節ごとに根をおろして名前のとおり地面を縛るように増えていく。葉は長い柄をもち卵形(※3)～楕円形でやわらかい。道端、草地などに生育する。

※1：二年生(植物)…種をまいた最初の一年は根や茎や葉を成長させ、翌年の春・夏に花が咲き、種をつけ、枯れる植物。

※2：半寄生植物…他の植物に寄生しながら、自らも光合成により栄養分を生産している植物。

※3：卵形(らんげい)…卵の形に似た楕円形。



報告件数：33件 メッシュ数：14

特徴

3～4月ごろに淡黄緑色の花を咲かせる。高さ10～30cmの多年生植物。太いひげ根は肉質で白く、葉は細く硬い。花茎（※1）はやや肉質で、膜質の鱗片（※2）で包まれる。垂れ下がる唇弁（※3）には赤紫色の模様がある。里山、雑木林などに生育する。

シュンラン

準絶滅危惧（NT）

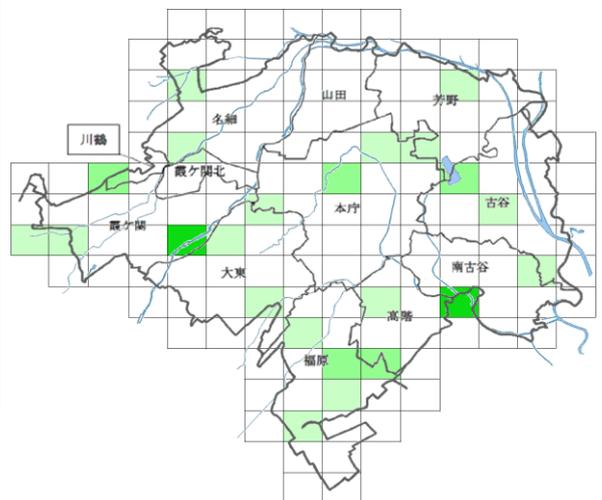


報告件数：50件 メッシュ数：23

特徴

8～10月ごろに黄褐色または赤紫色の花を咲かせる。高さ1～2mの大形多年生植物。根際から束のように枝を出し、株立ちになる。小穂（※4）の先に針状の毛があることが、オギとの違いである。秋の七草の一つ。平地、山地などに生育する。

ススキ



※1：花茎（かけい）…地下茎や根から直接出て、ほとんど葉をつけずに花だけをつける茎。

※2：鱗片（りんぺん）…植物の根や球根を保護する、複数の小さな葉のようなもの。

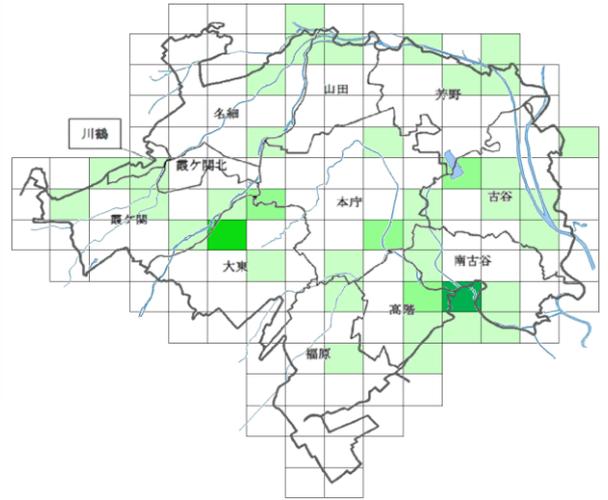
※3：唇弁（しんぺん）…花を下から受けるように広がる形の花びら。派手な色をしていることが多い。

※4：小穂（しょうすい）…1個～複数個の小花（しょうか：イネ科の花のこと）を含む構造。



セイバンモロコシ

重点対策外来種



報告件数：76件 メッシュ数：39

特徴

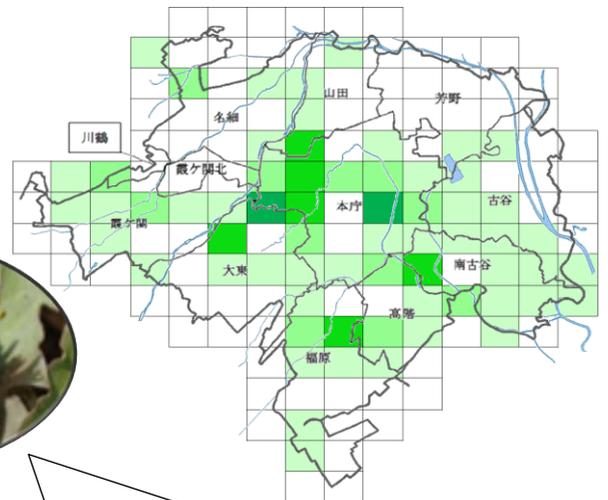
7～10月ごろに赤紫色の花を咲かせる。地中海原産で、高さ1～2mの大形多年生植物。地下茎が這い、茎は太く大きな株になる。葉は無毛でへりはざらつかない。茎の先に円錐状の大きな穂をつける。道端、荒地などに生育する。土手などではススキが本種に置き換わっている。

植
物



セイヨウタンポポ

重点対策外来種



報告件数：155 メッシュ数：64

特徴

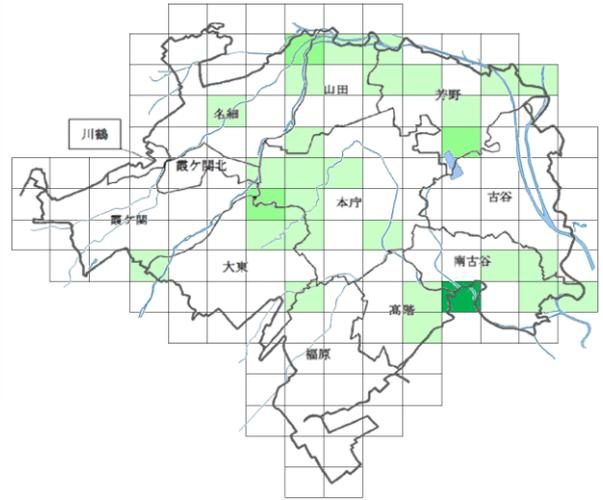
3～10月ごろに黄色の花を咲かせる。ヨーロッパ原産で、高さ10～30cmの多年生植物。在来のタンポポに比べ舌状花(※1)の数が多く、総苞片が反り返るので区別できる。繁殖力が強く、都市部では在来種を凌駕している。

カントウタンポポ 総苞片が反り返らない

※1：舌状花(ぜつじょうか)…細長い舌状の花。キク科の花は舌状花がたくさん集まって一つの花のように見える。



セリ



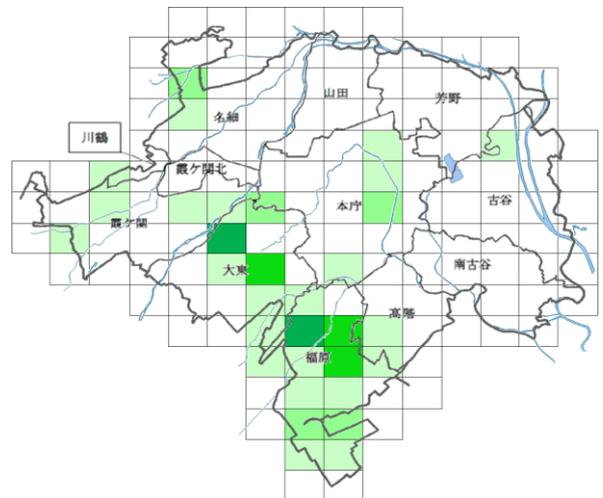
報告件数：53件 メッシュ数：29

特徴

7～8月ごろに白色の花を咲かせる。高さ20～50cmの多年生植物。白くてやや太い匍匐枝（※1）を伸ばし、秋に節から新芽を出す。小葉は卵形で粗い鋸歯（※2）がある。春の七草の一つで、若い芽は食用にする。似た種にクレソンがあるが、セリよりもクレソンの葉の方が丸みを帯びている。湿地、水田などに生育する。



タチツボスミレ



報告件数：83件 メッシュ数：32

特徴

3～5月ごろに淡紫色の花を咲かせる。高さ5～15cmの多年生植物。地下茎は短く、茎は枝分かれして株を作る。ハート形の葉と立ち上がる茎、くしの歯状の托葉（※3）が特徴。草原、山野などに生育する。

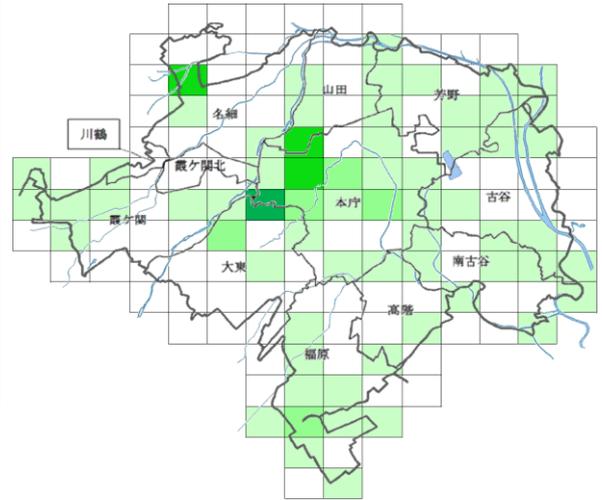
※1：匍匐枝（ほふくし）…根際から出て地上を這って伸びる枝。

※2：鋸歯（きょし）…主に葉の縁のギザギザのあるものをいう。波状や短糸状など様々なものがある。

※3：托葉（たくよう）…葉の柄の基部の両側に生えているもの。未発達のを保護する役割を持ち、葉が成長すると落ちてしまうことが多い。



ハルジオン



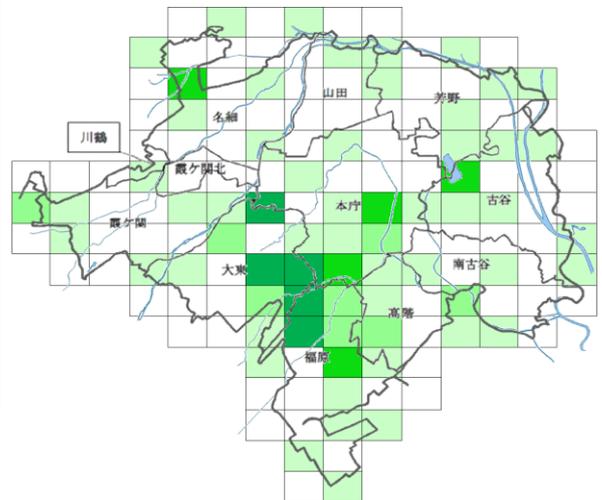
報告件数：106件 メッシュ数：65

特徴

4～6月ごろに淡紅色の花を咲かせる。北アメリカ原産で、高さ40～70cmの多年生植物。細い地下茎をひいてロゼット（※1）をつくり群生する。茎は中空（※2）。葉が茎を抱き、つぼみの時は垂れ下がる。野原、道端などに生育する。



ヘクソカズラ



報告件数：170件 メッシュ数：67

特徴

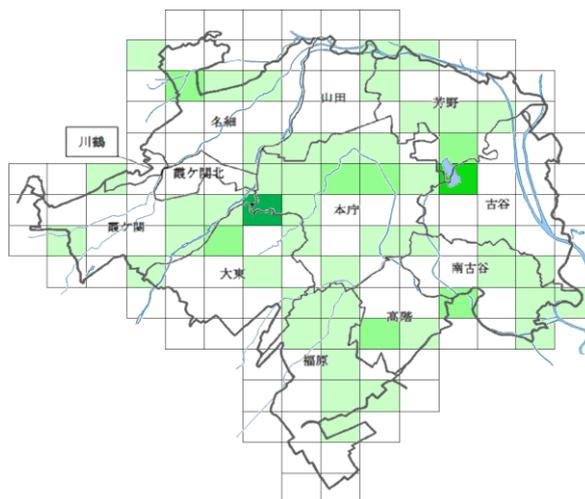
8～9月ごろに白色、内面が紅紫色の花を咲かせる。茎の全長が数mに達する多年生の大形つる性植物。葉や茎に悪臭があるのでこの名がある。秋に黄色で光沢のある球形の実をつける。野原、藪（やぶ）などに生育する。

※1：ロゼット…根生葉が放射状に生えて作る株のこと。多年生の植物はロゼットを作り冬を越すものが多い。

※2：中空（ちゅうくう）…中が空っぽで、なにも詰まっていないこと。



ホトケノザ



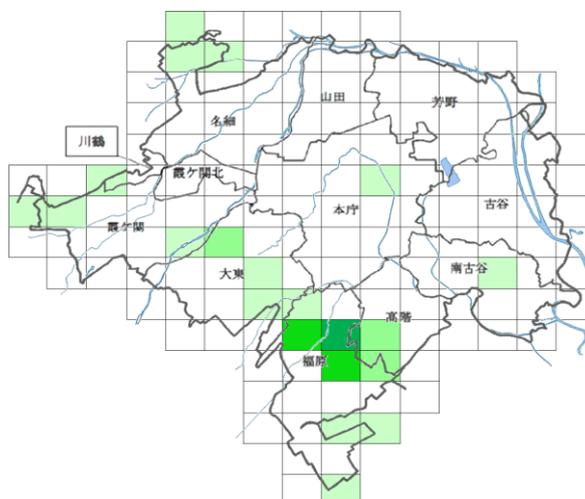
報告件数：106件 メッシュ数：53

特徴

3～5月ごろに淡紫色の花を咲かせる。高さ10～30cmの越年生植物（※1）。茎は根際で何本にも枝分かれし、群がって立つ。節ごとに唇形花（※2）を輪生（※3）するが、閉鎖花（※4）もある。田畑、道端などに生育する。



ミズヒキ



報告件数：53件 メッシュ数：21

特徴

8～10月ごろに上半部が赤色、下半部が白色の花を咲かせる。高さ50～80cmの多年生植物。葉は楕円形で、ときに表面の中央に黒い斑紋がある。小さな花は上から見ると赤く、下から見ると白いので水引という名がついた。山野、林の縁などに生育する。

※1：越年生植物…秋に発芽して冬を越し、翌年の春に花が咲き、種をつけ、枯れる植物。

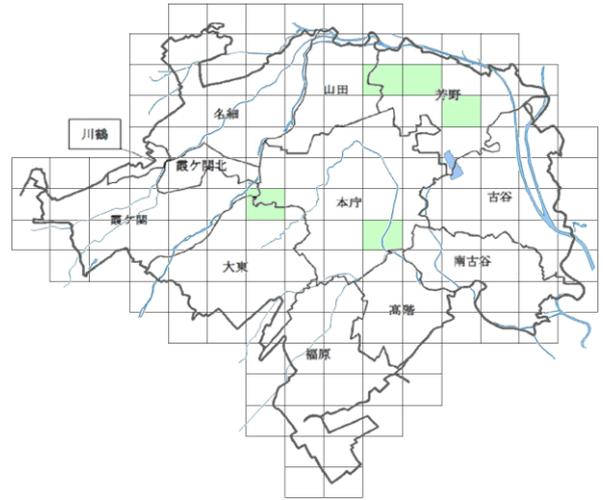
※2：唇形花（しんけいか）…根元が筒状で、花びらの先が唇のように上下に分かれている花。

※3：輪生…植物の茎の一つの節から3枚以上の葉がつくこと。

※4：閉鎖花（へいさか）…成熟しても花が開かず、つぼみのまま自家受粉・自家受精し、結実に至る花。



ミゾカクシ



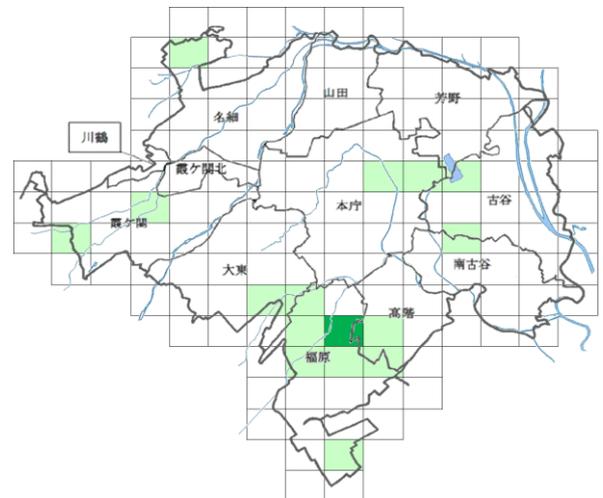
報告件数：6件 メッシュ数：5

特徴

6～9月ごろに白色または淡紫色の花を咲かせる。高さ10～15cmの多年生植物。茎は細く枝分かれし地面に沿って長く伸び、節から根を出す。葉のわきから独特な形の花を出す。田の畔や水路の周辺などに生育する。田の畔にむしろを敷いたように繁茂する様子からアゼムシロとも呼ばれる。



アカマツ



報告件数：45件 メッシュ数：16

特徴

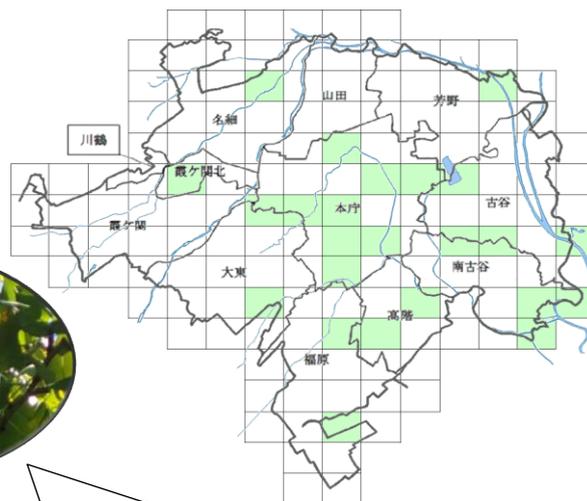
4～5月ごろに緑黄褐色の雄花、紅紫色の雌花を咲かせる。高さ30～40mの常緑（※1）針葉樹（※2）。樹皮は赤褐色または黄褐色で、幹の下部は暗赤褐色。老木になると厚く亀甲状に裂ける。日当たりのよい山野などに生育する。近年は松くい虫（※3）による被害が問題となっている。

※1：常緑（樹）…一年を通じて幹や枝に葉がついていて、年中緑の葉を見ることができる植物。

※2：針葉樹…針のように細長く、堅い葉をつける樹木。

※3：松くい虫…正しくは「マツ材線虫病」という伝染病。「マツノザイセンチュウ」という線虫を「マツノマダラカミキリ」という昆虫が健全なマツに運び、枯らしてしまう。

イチョウ

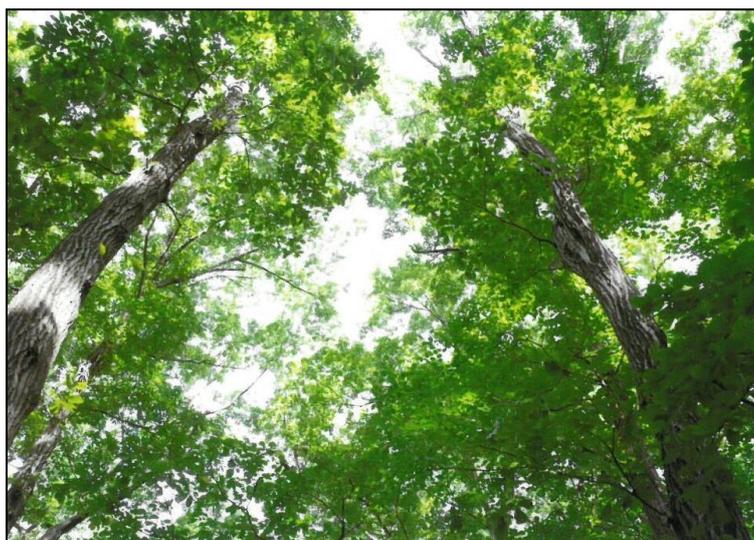


報告件数：44 件 メッシュ数：25

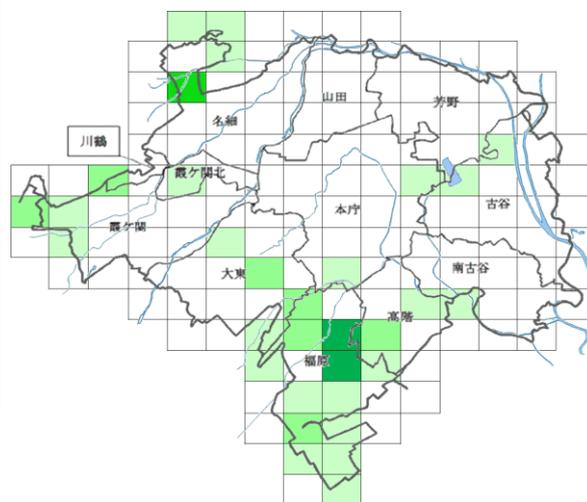
特徴

4 月ごろに淡黄色の雄花、緑色の雌花を咲かせる。中国原産で、高さ 20～40m の落葉（※1）高木。葉は扇形で、秋には美しく黄葉する。種子は 9 月ごろ成熟する。生きた化石と呼ばれており、日ごろ見かけるイチョウはすべて栽培種である。社寺の境内や街路樹として広く植えられている。

イチョウの種子 銀杏（ギンナン）



コナラ



報告件数：101 件 メッシュ数：32

特徴

4～5 月ごろに黄褐色の雄花、総苞に包まれた雌花を咲かせる。高さ 15～30m の落葉広葉樹（※2）。樹皮は灰黒色で縦に不規則な裂け目がある。ドングリの名で知られる実をつける。日当たりのよい山野に生育する。武蔵野の雑木林を構成する中心的な樹種。

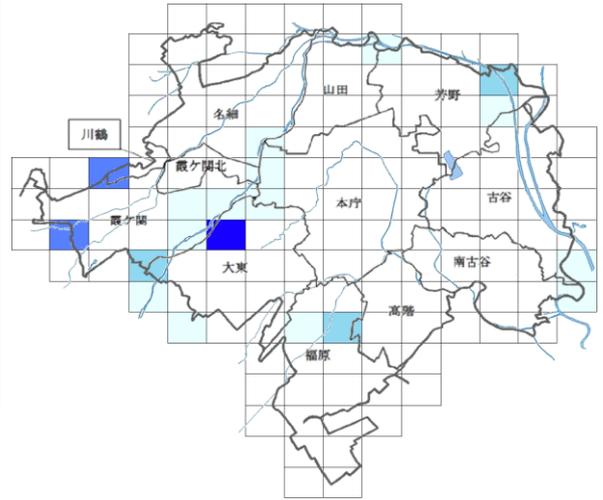
※1：落葉（樹）…ある季節に定期的に葉を落とす樹木。

※2：広葉樹…一般的に葉が広く平たい形をしている樹木。



ガビチョウ

重点対策外来種



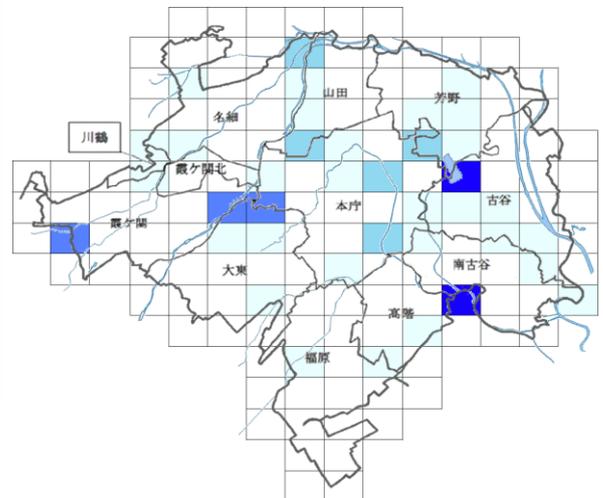
報告件数：49件 メッシュ数：19

特徴

ベトナム北部～中国南部原産の留鳥（※1）。目の周りに白い帯状模様がある。様々な鳥の声を真似して大きな声でさえずる。藪や木に葉や草で大きなお椀型の巣を作る。雑食性で、主に木の実や昆虫を食べる。雑木林、竹林の藪などに生息する。



カルガモ



報告件数：138件 メッシュ数：38

特徴

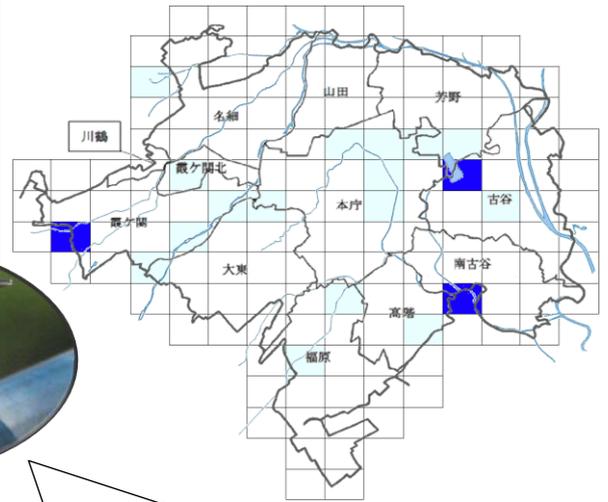
留鳥。全体が黒褐色で、顔が白い。顔には2本の黒褐色の線がある。嘴（くちばし）は黒いが先端だけ黄色い。脚は赤橙色。大きな声で「グエッグエッ」と鳴く。水辺の草地などに巣を作る。草の種子、葉、落穂などを食べる。河川や湖沼、水田などに生息する。

※1：留鳥（りゅうちょう）…同じ地域に一年中生息し、季節的な移動をしない鳥。



カワセミ

地帯別危惧 (RT)



報告件数：84件 メッシュ数：19

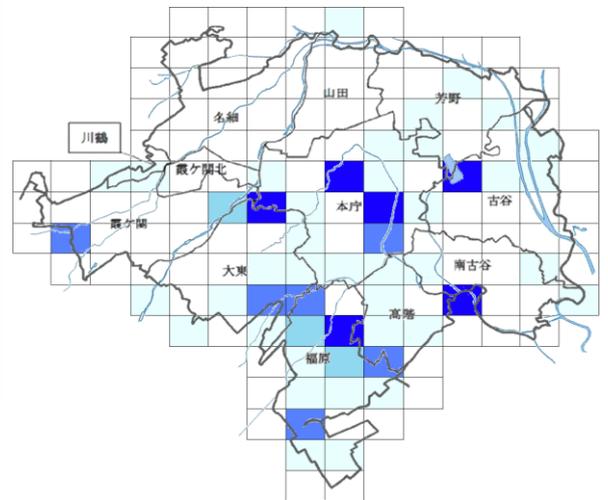
特徴

留鳥。頭から翼の上面、尾は青緑色で、背は光沢のある鮮やかな青色。胸から腹、下尾筒(※1)は橙褐色。「チーッ」などと鳴きながら水面上を直線的に飛ぶ。崖に横穴を掘って巣を作る。小型の魚類、昆虫などを食べる。河川や湖沼、溪流などに生息する。

カワセミのメス 下の嘴が赤い



キジバト



報告件数：190件 メッシュ数：51

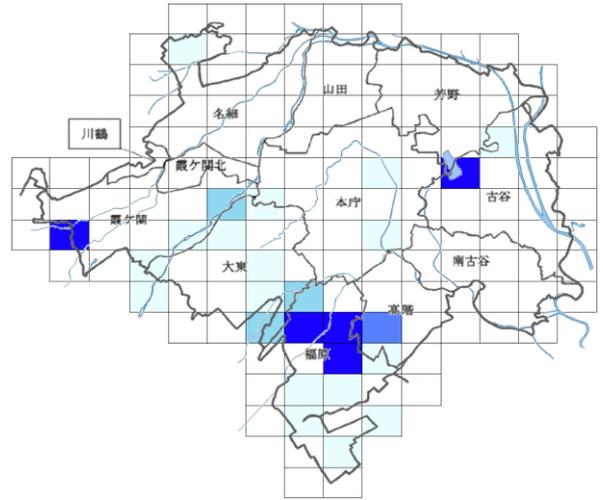
特徴

留鳥。全体が灰褐色で、首には青灰色と濃い紺色の横縞模様がある。背と翼には灰黒色に橙褐色のうろこ模様。「デデーポッポッ、デデーポッポッ」と鳴く。枝の上に、皿型の粗雑な巣を作る。木の実や芽、草の種子、小型のミミズ類などを食べる。住宅地や公園、平地林などに生息する。

※1：尾筒(びとう) …尾羽の付け根を被う羽毛。背側を上尾筒、腹側を下尾筒という。



コゲラ



報告件数：121件 メッシュ数：26

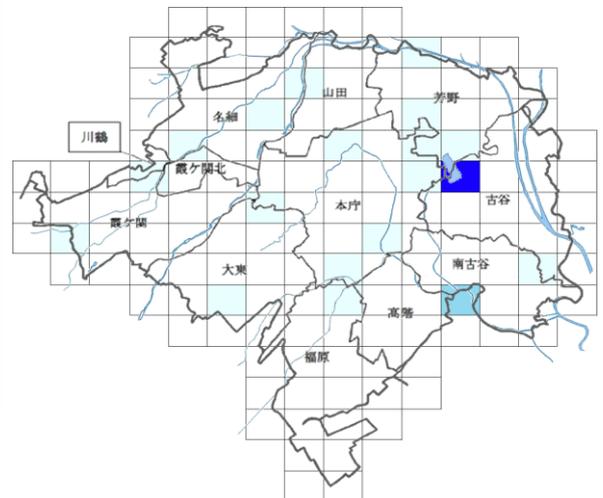
特徴

留鳥。背と翼は焦茶色がかった黒で、白い横縞模様がある。喉から下尾筒まで褐色を帯びた白色。胸側から脇腹に薄い焦茶色縦縞模様がある。「ギー、ギー」と鳴く。枯れかけた木に穴をあけて巣を作る。昆虫類、木の実などを食べる。雑木林、森林などに生息する。



コサギ

準絶滅危惧2型 (NT2)



報告件数：61件 メッシュ数：19

特徴

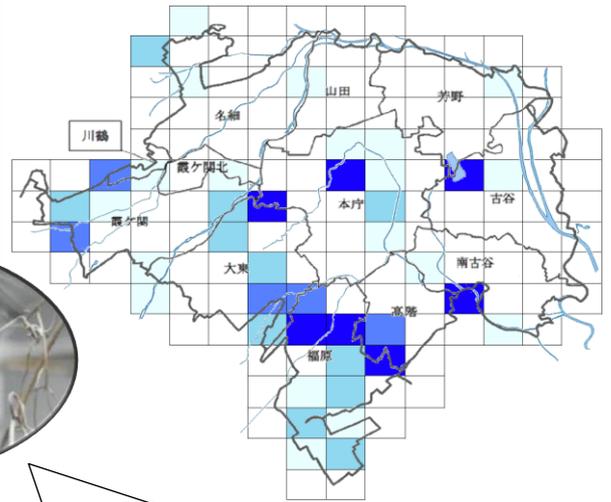
留鳥。全身が白い。夏羽(※1)では後頭に2本の長い冠羽(※2)がある。脚は長く黒いが、指は黄色い。「グワァー、グワァー」と鳴く。枝の上に、皿型の粗雑な巣を作る。魚類、昆虫、ザリガニ、カエルなどを食べる。河川、湖沼、湿地、水田などに生息する。

※1：夏羽…繁殖期やつがいをつくる時期の羽。一般的に春の換羽(かんう：羽毛が抜けかわること)によって夏羽となる。

※2：冠羽(かんう)…頭から生えている冠状の羽。



シジュウカラ



報告件数：206件 メッシュ数：42

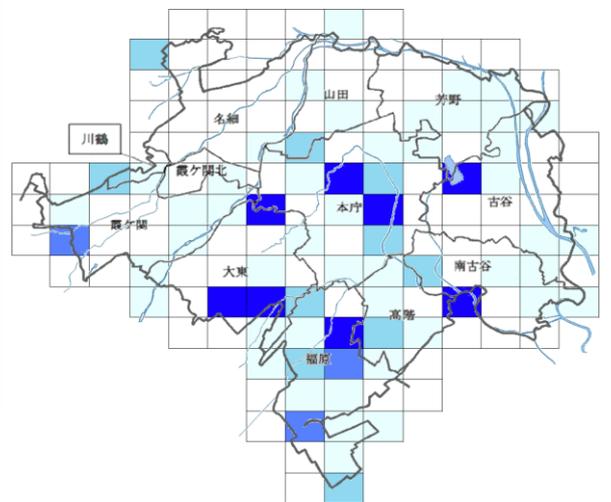
特徴

留鳥。頭から首周りは青色光沢のある黒。背は灰青色で上部は黄緑色。翼に白線が1本ある。喉から胸に黒いネクタイ状の模様がある。「ツピイツピィ」と鳴く。人をあまり恐れず、樹洞、巣箱などに巣を作る。木の実や、小型の昆虫類などを食べる。市街地、雑木林などに生息する。

オスはネクタイ模様が太く、メスは細い



スズメ



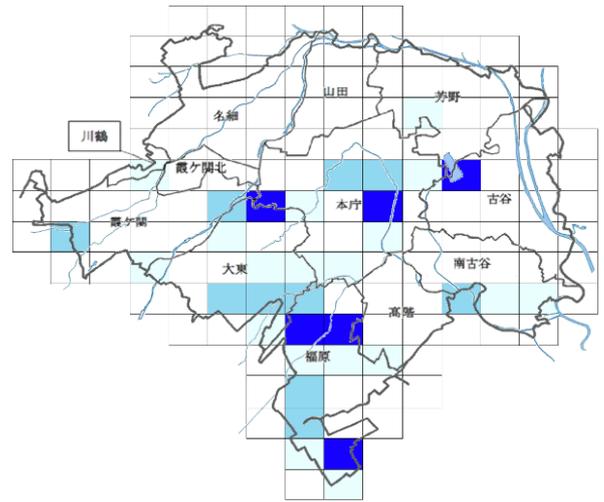
報告件数：260件 メッシュ数：66

特徴

留鳥。人里に住み人に最も近い野鳥。頭、背、尾が茶褐色で、黒色の縦縞がある。頬から首の周りは白い。「チュン、チュン」と鳴く。樹洞、建物の隙間などに巣を作る。昆虫類、草の種子、穀物類などを食べる。市街地、農耕地、公園など、人家付近に生息する。



ツグミ



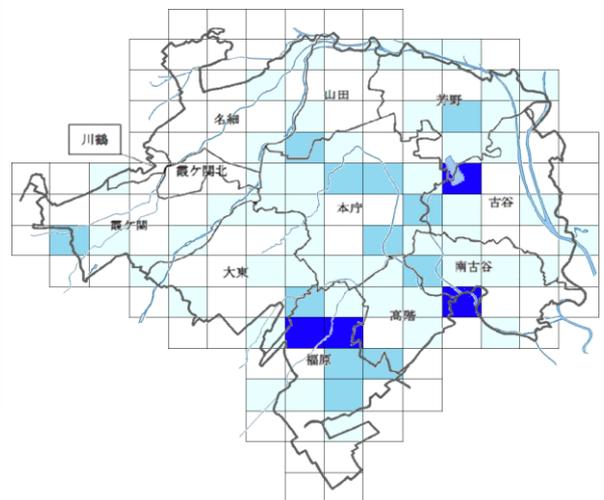
報告件数：119件 メッシュ数：34

特徴

冬鳥（※1）。頭から背、翼の上面、腰、尾にかけての上面は黒褐色で、背、翼の雨覆羽（※2）は淡褐色の縁がある。肩は白色。胸の下から腹は白で、黒褐色の鱗（うろこ）模様がある。地上をとんとんと跳ねるように歩き、立ち止まっては胸をはる。「クィクィ」と鳴く。木の実、草の種子、昆虫、ミミズ類などを食べる。農耕地、河原、雑木林などに生息する。



ツバメ



報告件数：171件 メッシュ数：63

特徴

夏鳥（※3）。頭から背は藍色光沢のある黒。額と喉は赤褐色で、胸の上部には黒い帯がある。胸の下から下尾筒まで白く、尾羽は両側が長い。「チュピチュピ」と鳴く。人家の軒下など、建造物に巣を作る。低空飛翔し、飛ぶ昆虫などを食べる。市街地、山村などに生息する。

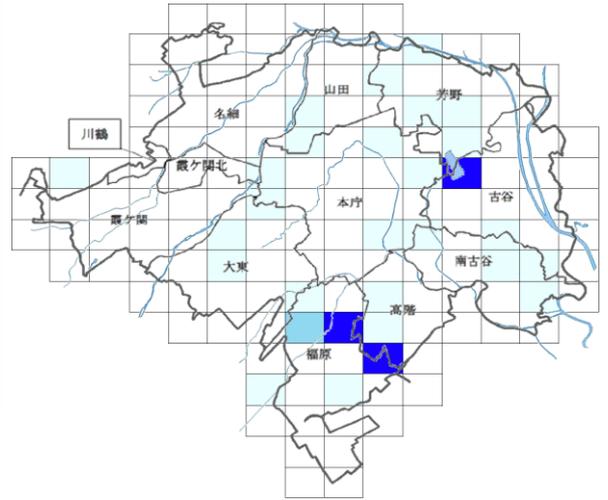
※1：冬鳥…越冬するために日本に渡来する渡り鳥。秋に渡来し冬を過ごし、春に北方に渡って繁殖する。

※2：雨覆羽（あまおいばね）…飛ぶために重要な風切羽（かざきりばね：浮力と推進力を得る羽）が濡れるのを防ぐ役割をもつ。

※3：夏鳥…繁殖するために日本に渡来する渡り鳥。春に渡来し夏を過ごし、秋に南方に渡って越冬する。



ヒバリ



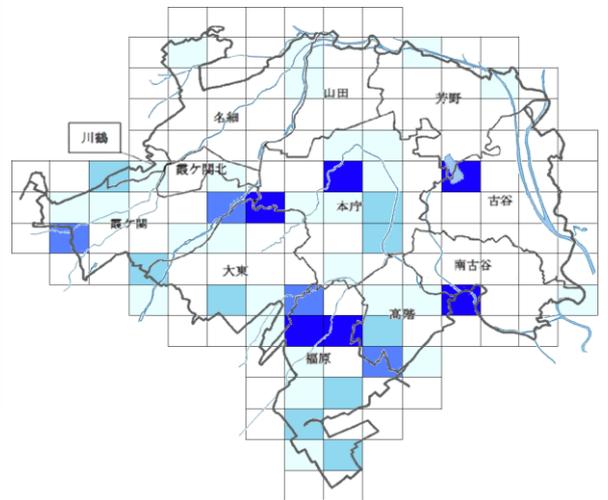
報告件数：71件 メッシュ数：29

特徴

留鳥。頭から背は淡い黄褐色に黒褐色の斑点模様がある。オスの頭には冠羽がある。「ピーク、ピーク」と鳴く。地面を掘り、草を詰めてお椀型の巣を作る。草の種子、昆虫、ミミズ類などを食べる。畑地、河原、草原などに生息する。



ヒヨドリ



報告件数：206 メッシュ数：47

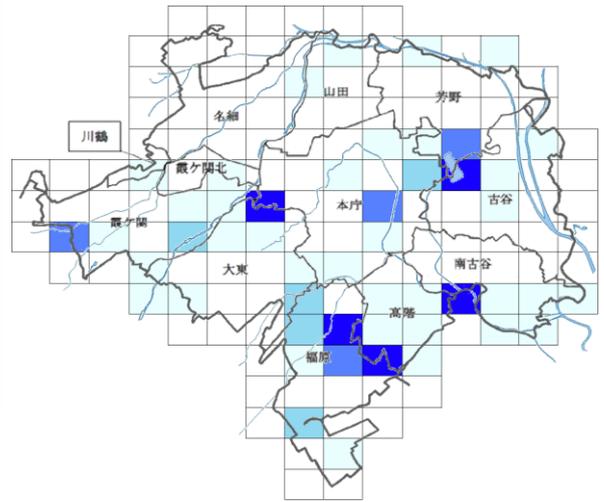
特徴

留鳥。全体が暗い青灰色で、胸から腹は灰色に白っぽい斑紋がある。耳羽（※1）は茶褐色。「ヒューヨ、ヒューヨ」と鳴く。枝の上にお椀型の巣を作る。雑食性で、主に花の蜜や木の実、昆虫や野菜の葉などを食べる。雑木林、農耕地などに生息する。

※1：耳羽（じう）…耳を被う羽毛。



モズ



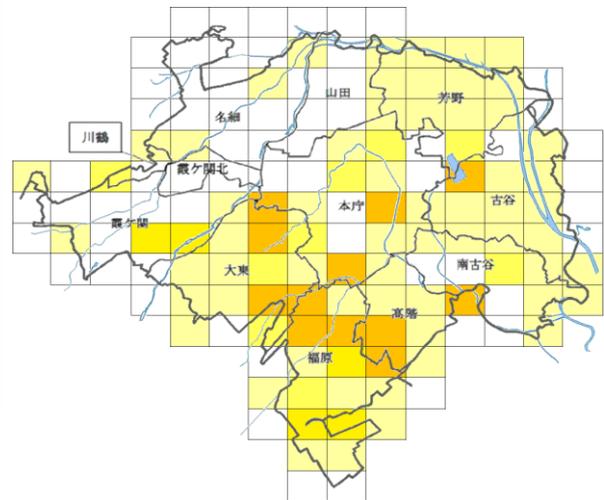
報告件数：169件 メッシュ数：49

特徴

留鳥。頭が褐色で、背は灰褐色。喉、頬は橙色を帯びた白。胸、腹は白っぽい茶橙色で、脇腹は茶褐色。黒褐色で長めの尾をよく振る。「キイキイ」と鳴く。低木や笹藪に巣を作る。雑食性で、主に木の実、昆虫、カエルなどを食べる。尖った枝にトカゲやカエル、バッタなどを刺してはやにえ（※1）をつくる。河原、雑木林、農耕地などに生息する。



モンシロチョウ



報告件数：361件 メッシュ数：86

特徴

3～10月ごろまでの期間にわたって見られる小型から中型の白いチョウ。前翅（※2）と後翅（※3）の前縁に灰黒色で、さらに前翅の中央には灰黒色の斑点が2つある。孵化した時は自分の卵の殻を、脱皮した時はその皮を食べる。幼虫の食草（※4）はキャベツ、白菜などのアブラナ科の葉。畑、野原などに生息する。

※1：はやにえ…モズ類が捕らえた獲物を尖った枝や有刺鉄線など鋭利なものに突き刺しておく習性。

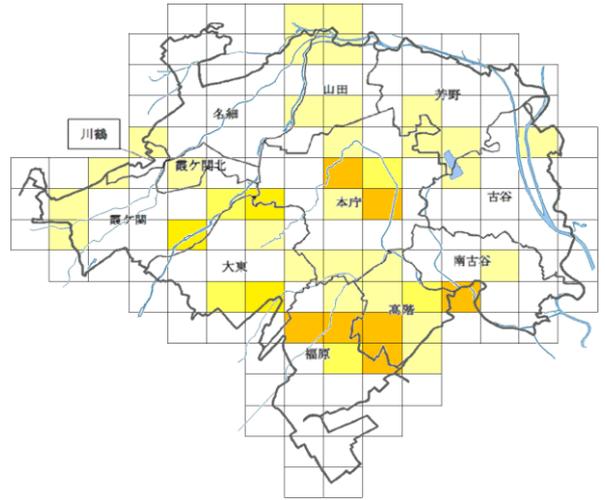
※2：前翅（ぜんし）…2対の翅（はね：昆虫の羽）のうち、前方の1対の翅。

※3：後翅（こうし）…2対の翅のうち、後方の1対の翅。

※4：食草（しょくそう）…昆虫が食物として摂食する植物。



ツマグロヒョウモン



報告件数：194件 メッシュ数：44

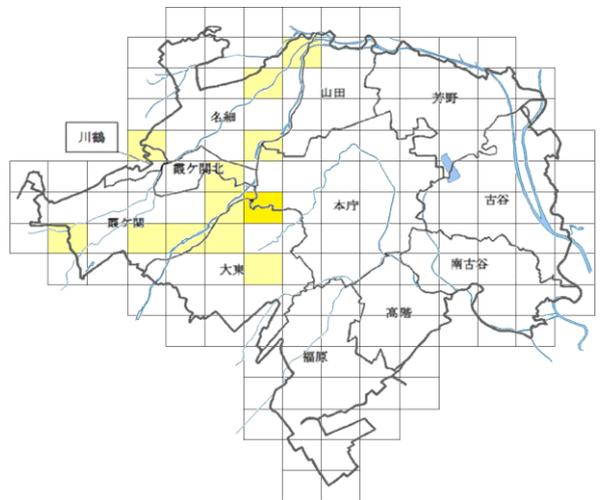
特徴

4～11月ごろまでの期間にわたって見られる中型のチョウ。オスは橙色の翅に黒点模様だけなのに、メスは翅の先が紫色で、その中に大きな白い斑紋があるので見分けることができる。幼虫の食草はパンジーなどのスミレ科の葉。道端、草原などに生息する。

昆虫



ジャコウアゲハ



報告件数：22件 メッシュ数：12

特徴

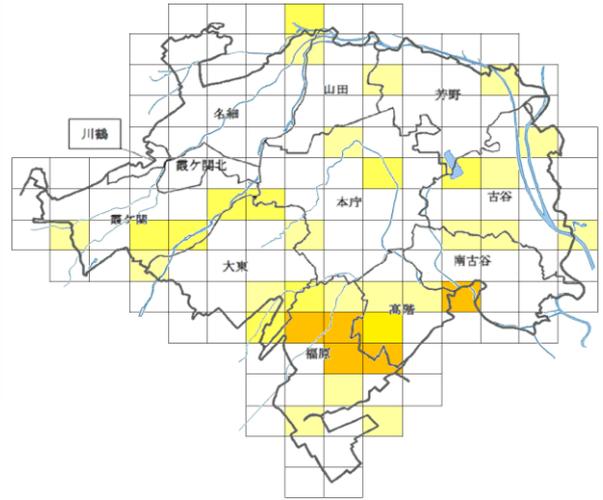
4～9月ごろまでの期間にわたって見られる大型のチョウ。翅は全体的に黒く、前翅がオスは黒色、メスは淡褐色に見える。後翅は斜め後方に細長く伸び、尾状突起（※1）がある。オスの後翅には赤い斑紋がある。胴体に、赤～黄色の毛をもつ。幼虫の食草はウマノスズクサの葉。河原、荒地などに生息する。

※1：尾状突起（びじょうとつき）…後翅の最下部にある突起。



アカボシゴマダラ

重点対策外来種



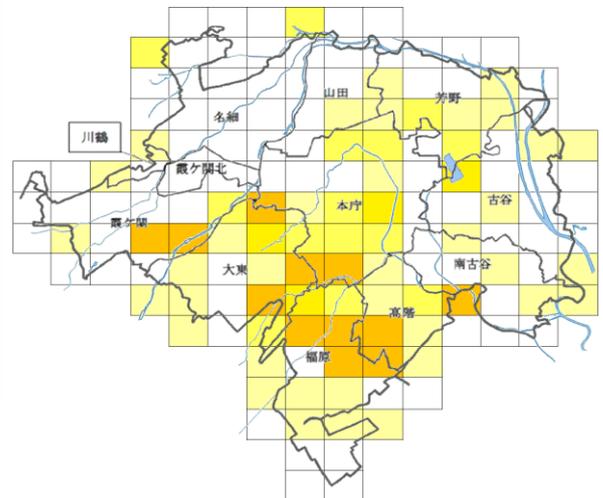
報告件数：157件 メッシュ数：35

特徴

4～11月ごろまでの期間にわたって見られる、朝鮮半島～中国原産の中型から大型のチョウ。後翅の外縁に赤い斑紋がある。春型（※1）は全体が白っぽく、赤紋がない。在来種のゴマダラチョウには赤紋がない。幼虫の食草はエノキの葉。道端、草原などに生息する。



ヤマトシジミ



報告件数：331件 メッシュ数：69

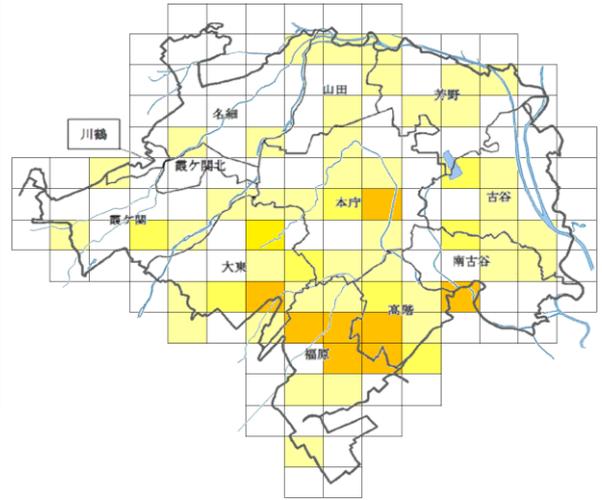
特徴

4～11月ごろまでの期間にわたって見られる小型のチョウ。オスの翅の表面はやや光沢のある水色で、メスは黒みがかった水色。裏面は灰褐色で黒い斑紋がある。幼虫の食草はカタバミの葉。道端、農耕地などに生息する。

※1：春型…さなぎの状態越冬し、春に成虫になった個体。



ナミアゲハ



報告件数：266件 メッシュ数：57

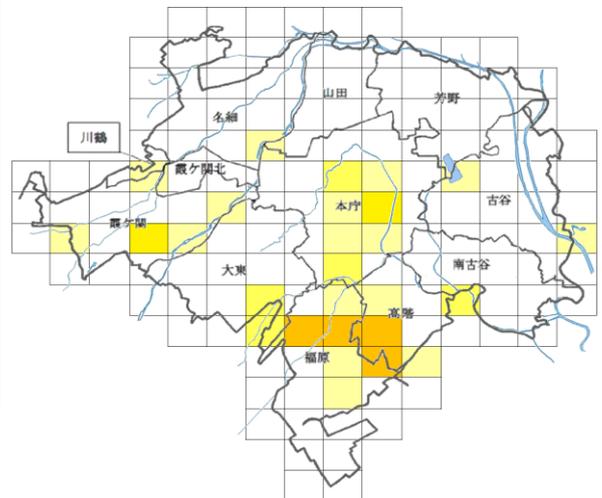
特徴

4～10月ごろまでの期間にわたって見られる中型から大型のチョウ。黒色の翅に黄白色の紋様がある。春型は夏型（※1）よりも小さい。幼虫の食草はカラタチなどのミカン科の葉。道端、草地、住宅地などに生息する。

昆虫



クロアゲハ



報告件数：103件 メッシュ数：27

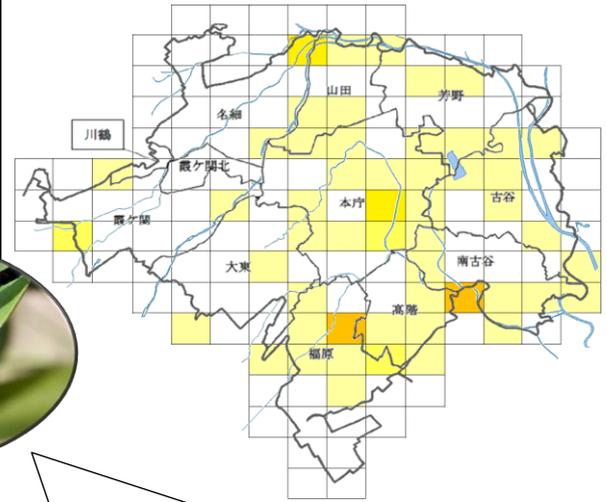
特徴

4～10月ごろまでの期間にわたって見られる大型のチョウ。翅は全体的に黒く、裏面には赤い斑紋がある。メスは表面にも赤い斑紋がある。幼虫の食草はサンショウなどのミカン科の葉。山地、農耕地などに生息する。

※1：夏型…春型から産まれた世代以降の成虫。



シオカラトンボ

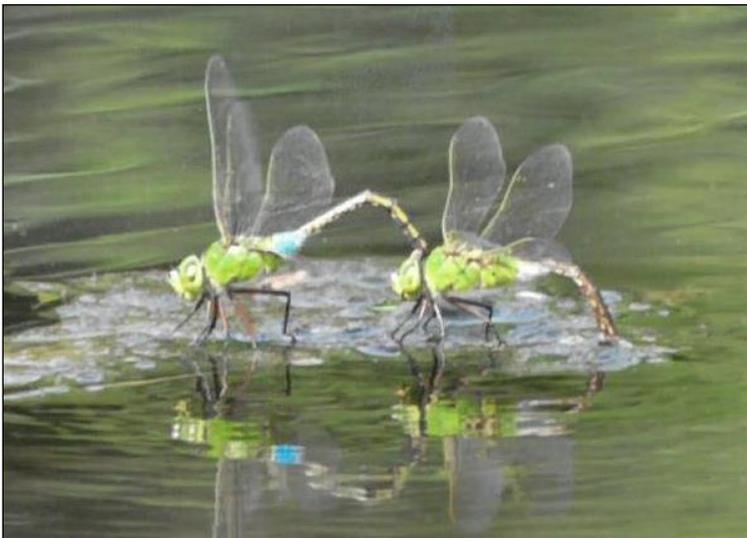


報告件数：103件 メッシュ数：53

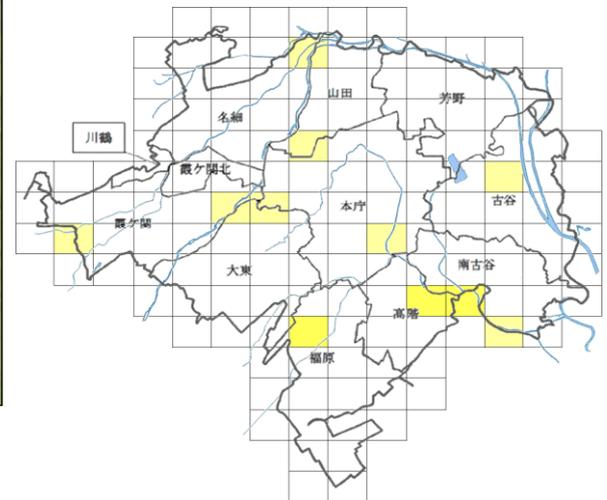
特徴

4～10月ごろまでの期間にわたって見られる中型のトンボ。オスは腹部に白粉を帯び、ほのかに青く見える。メスは黄褐色に黒の縞模様で、その色合いからムギワラトンボと呼ばれている。楕円形のヤゴ（※1）。昆虫を食べる。池沼、湿地、水田などに生息する。

シオカラトンボのメス 色合いが麦藁帽子



ギンヤンマ



報告件数：20件 メッシュ数：11

特徴

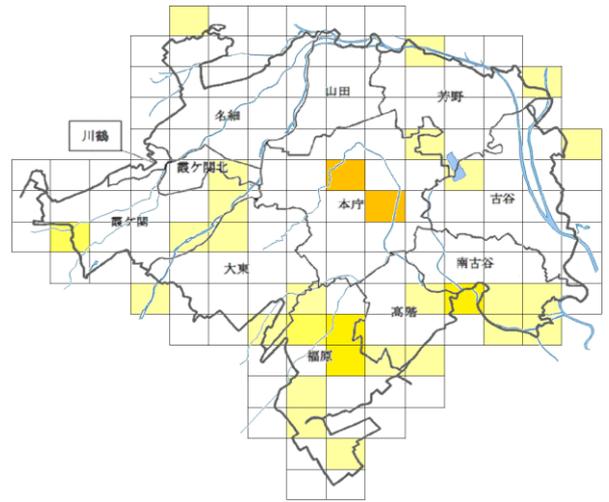
4～11月ごろまでの期間にわたって見られる大型のトンボ。黄緑色の体で、腹部は褐色。オスは腹部に空色と銀白色の帯がある。紡錘形（※2）のヤゴ。昆虫を食べる。池沼、水田などに生息する。

※1：ヤゴ…トンボ類の幼虫の総称。少数の例外を除いて水中で生活する。

※2：紡錘形（ぼうすいけい）…円柱形の両端がとがっている形。



アキアカネ



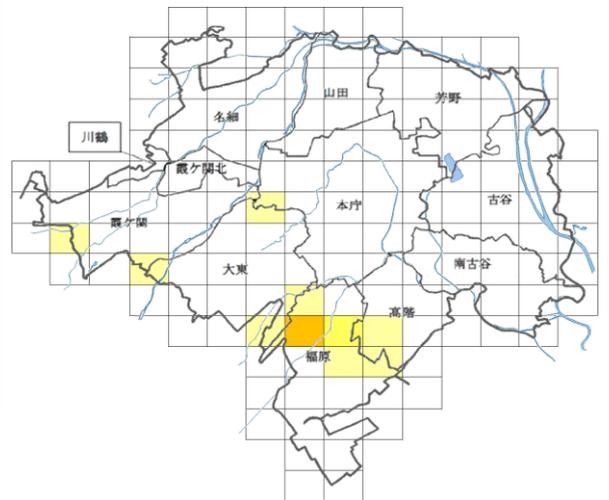
報告件数：72件 メッシュ数：30

特徴

6～10月ごろまでの期間にわたって見られる小型から中型のトンボ。頭部と胸部は褐色、腹部は赤色。楕円形のヤゴ。昆虫を食べる。池沼、水田などに生息する。「赤とんぼ」は一般的にこのアキアカネを指す。



カブトムシ



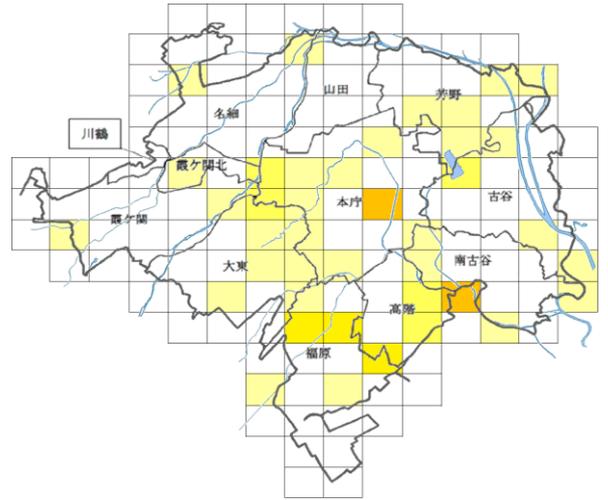
報告件数：24件 メッシュ数：10

特徴

6～8月ごろまでの期間にわたって見られる。オスは大きな角をもち、メスは角がない。他のオスとけんかするときは、角を相手の腹の下に入れてすくい上げ、投げ飛ばす。幼虫の間は枯れ葉の堆肥や朽木などを食べる。成虫はクヌギやコナラなどの樹液、腐った果実などを食べる。森林、雑木林などに生息する。



ナナホシテントウ



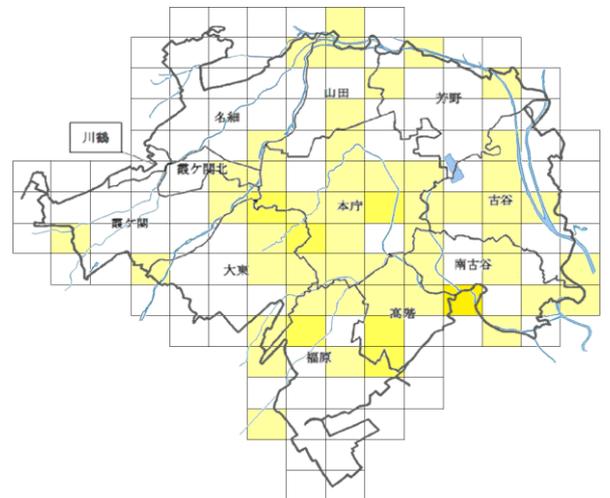
報告件数：86 メッシュ数：40

特徴

3～11 月ごろまでの期間にわたって見られる中型のテントウムシ。翅は赤色で 7 個の黒点がある。アブラムシ類を食べる。幼虫は芋虫型で、全身に突起があり、長い脚をもつ。草原、農耕地、市街地などに生息する。



ショウリョウバッタ



報告件数：77 件 メッシュ数：54

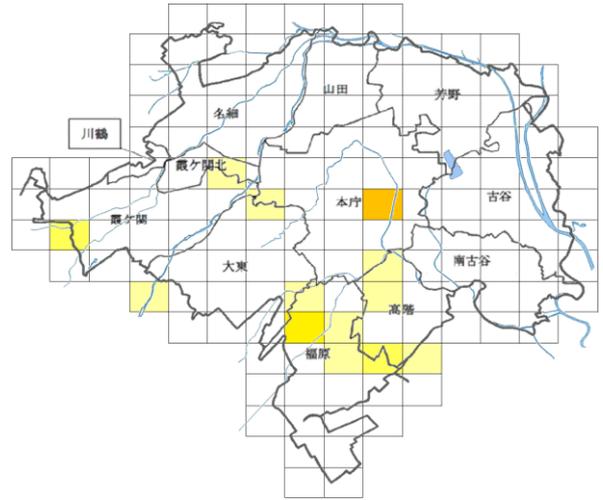
特徴

7～10 月ごろまでの期間にわたって見られる中型から大型のバッタ。ショウリョウバッタの体色は保護色（※1）で、生息する場所によって緑型と褐色型の 2 型がある。後脚が長い。驚いて飛ぶときに、前翅と後翅を打ち合わせて「キチキチ」と音を出す。イネ科などの植物の葉を食べる。河川敷、草地などに生息する。

※1：保護色…外敵から身を守るため、あるいは獲物を待ち伏せるため、周囲に溶け込む体色や模様。



オオカマキリ



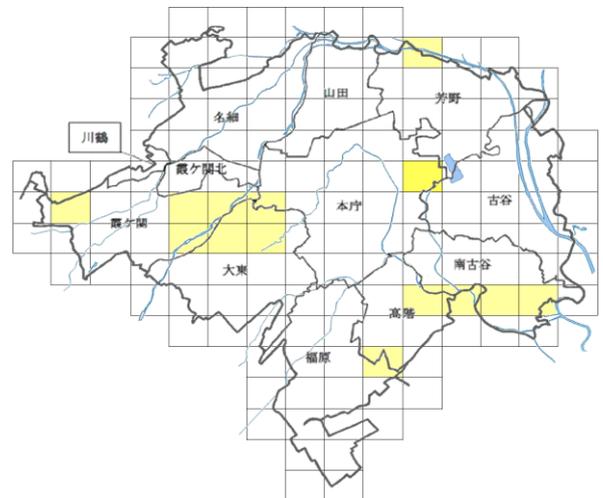
報告件数：31件 メッシュ数：13

特徴

8～11月ごろまでの期間にわたって見られる大型のカマキリ。全体が緑色または淡褐色。後翅に紫褐色の斑紋があり、飛ぶと目立つ。威嚇するときは前脚を上げ、後翅を広げる。身を潜め、チョウやバッタなど大きめの昆虫を捕らえて食べる。林縁、草地などに生息している。



イナゴ



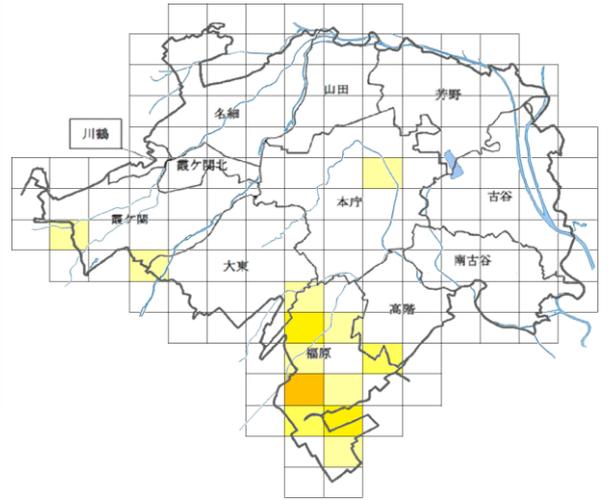
報告件数：19件 メッシュ数：14

特徴

7～11月ごろまでの期間にわたって見られる、イナゴ科に属するバッタ類の総称。10種類以上を含む。イネ科の葉を食べる。たんぱく質が豊富で、日本ではよく佃煮にして食べられる。水田、野原などに生息する。



ヒグラシ



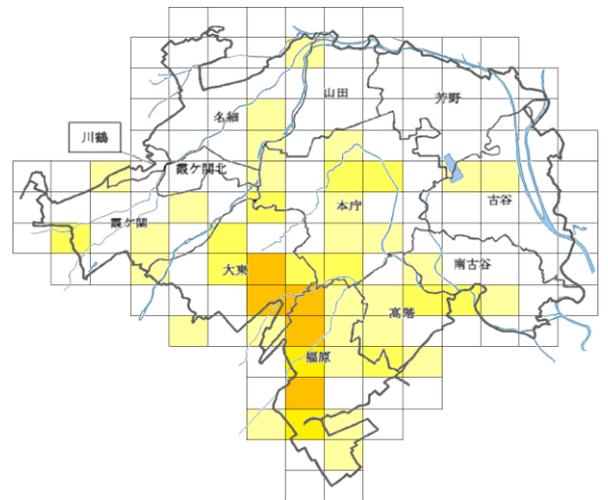
報告件数：38件 メッシュ数：13

特徴

6～9月ごろまでの期間にわたって見られる中型のセミ。早朝と夕方、曇りの日などに好んで鳴く。薄暗い林の中では一日中鳴いている。鳴き声から、「カナカナ」と呼ばれることもある。口吻（※1）を木に刺して樹液を吸う。ヒノキやスギ、広葉樹が育つ自然が豊かな環境に生息する。



ミンミンゼミ



報告件数：132件 メッシュ数：45

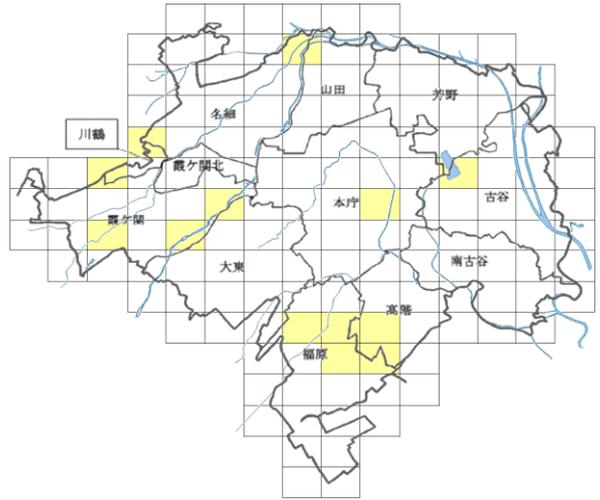
特徴

7～9月ごろまでの期間にわたって見られる大型のセミ。午前から午後にかけての日中に鳴く。鳴き声は「ミンミン」で分かりやすい。口吻を木に刺して樹液を吸う。サクラ類やケヤキが多い丘陵地や公園などに生息する。

※1：口吻（こうぶん）…チョウ類やセミ類、カなどのように液体を吸うために口が細長く伸びたもの。



ニホンミツバチ



報告件数：14件 メッシュ数：13

特徴

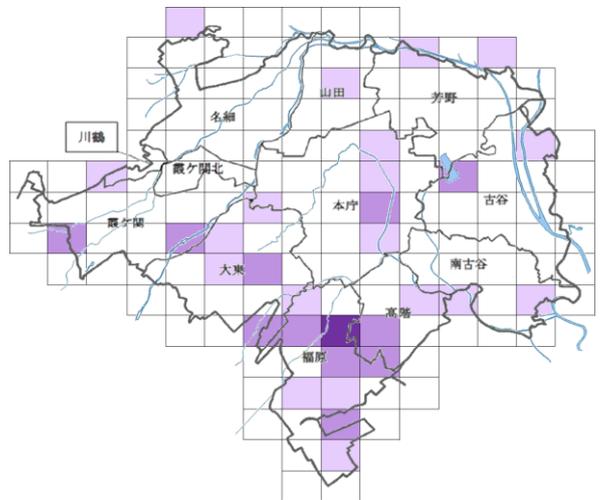
3～10月ごろまでの期間にわたって見られる小型のハチ。体長は1cm程度で全体が黒っぽく、黄色の網模様ははっきりしている。木の洞や土の中などに巣を作る社会性昆虫（※1）。花粉、花の蜜などを食べる。山野などに生息する。

昆虫

クモ



ジョロウグモ



報告件数：78件 メッシュ数：31

特徴

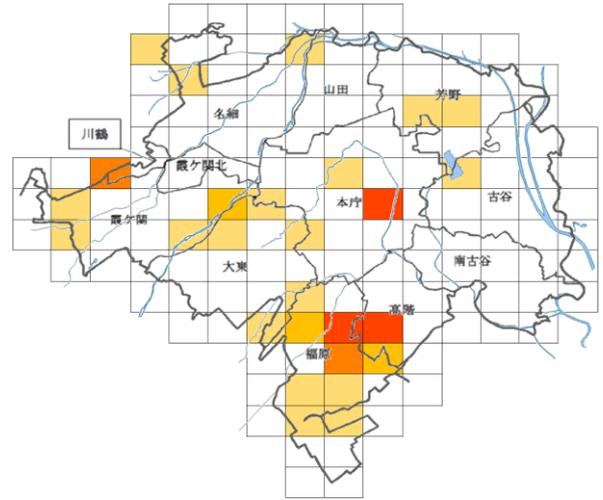
9～11月ごろまでの期間にわたって見られる小型から中型のクモ。腹部には黄色と緑青色の縦縞模様がある。下腹部に赤い模様がある。オスの大きさはメスの半分以下。直径1mほどの大きい網をつくる。巣の糸を時々振動させて、獲物が引っかった場所を調べて近づき捕獲する。獲物は多岐にわたり、セミやスズメバチなど大型の昆虫も捕食する。雑木林、公園、市街地などに生息する。

※1：社会性昆虫…同種の個体で集団を作り、その中に女王や働きバチのような階層のある生活をしているなど、人間のそれに似た社会的構造をもつ昆虫のこと。ハチ類やアリ類が該当する。



ニホンカナヘビ

地帯別危惧 (RT)



報告件数：84件 メッシュ数：27

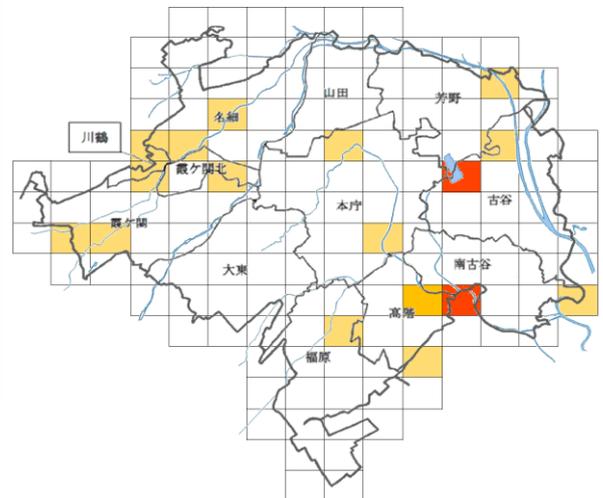
特徴

3～10月ごろまでの期間にわたって見られる中型のカナヘビ。体長は20cm前後で、その2/3を占める長い尾をもつ。ざらついた鱗があり、背面と脇腹は茶色。腹面は灰色から黄色みを帯びた白。目の下から脇腹にかけて白い線がある。小型の昆虫類を食べる。草地、藪、庭先などに生息する。よく似たニホントカゲは鱗がすべすべて艶があり、幼体は尾が青い。



ミシシippアカミミガメ

緊急対策外来種



報告件数：49件 メッシュ数：16

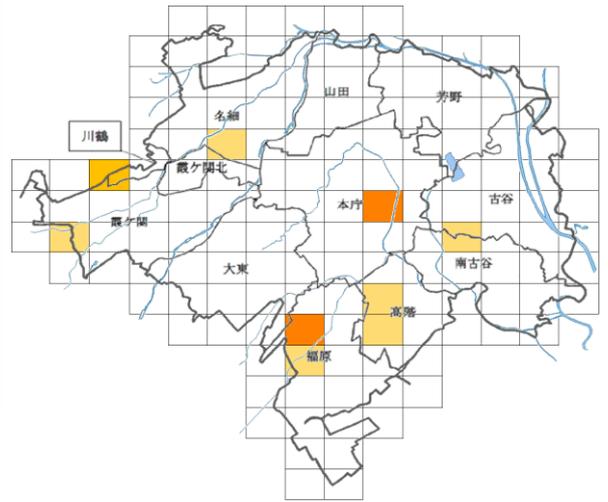
特徴

4～10月ごろまでの期間にわたって見られる中型のカメ。甲羅の長さは25cm前後で、メスはオスより大きい。背甲、頭部、四肢には緑、黄緑、黄色の複雑な模様があり、腹甲は鮮やかな黄色。目の後ろに赤い模様がある。幼体は緑色が濃いことから、ミドリガメと呼ばれている。雑食性で、水草や水生昆虫(※1)などを食べる。河川、湖、池沼などに生息する。

※1：水生昆虫…水中または水面で生活する昆虫。



ニホンヤモリ



報告件数：20件 メッシュ数：9

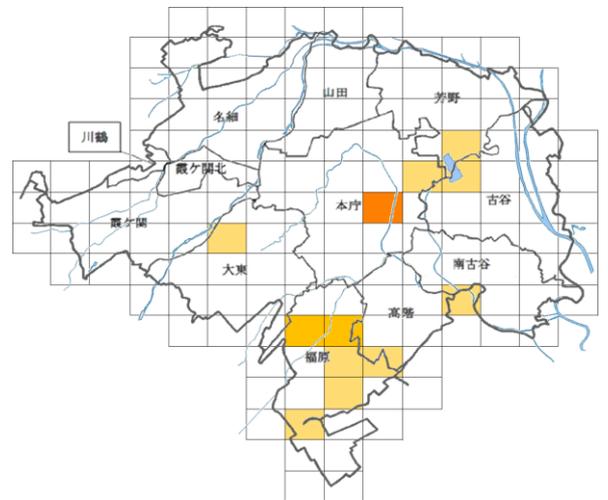
特徴

4～11月ごろまでの期間にわたって見られる中型のヤモリ。体長は10～14cm。粒状の細かい鱗に覆われ、背面は灰色の地に暗褐色、濃灰色の斑紋がある。足の裏に特有の形をもち、垂直のガラス面でも移動できる。昆虫やクモなどを食べる。人家やその周辺などに生息する。



アオダイショウ

準絶滅危惧2型 (NT2)



報告件数：24件 メッシュ数：12

特徴

5～10月ごろまでの期間にわたって見られる中型のヘビ。全長は1～2m。体色は主にオリーブ色がかった褐色だが、青、黄、黒褐色と個体差がある。瞳孔は丸い。性格は比較のおとなしく、毒はもっていない。幼体には横縞模様があり、毒をもつマムシに擬態しているといわれている。肉食性で、カエルやトカゲ、小型の哺乳類などを食べる。河川敷、農耕地、人家周辺などに生息する。



トウキョウダルマガエル

準絶滅危惧Ⅰ型 (NT1)



報告件数：37件 メッシュ数：23

特徴

4～10月ごろまでの期間にわたって見られる中型のカエル。体長は4～8cm。体色は緑色の個体が多いが灰褐色や茶褐色のものもいる。背面は平滑で黒い斑点がある。「ゲゲゲッ」と鳴く。昆虫、小型のカエルなどを食べる。池沼や湿地などにもいるが、水田の周辺に多く生息している。トノサマガエルの名称で呼ばれることが多いが、トノサマガエルは関東地方には分布していない。



ニホンアカガエル

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



報告件数：6件 メッシュ数：5

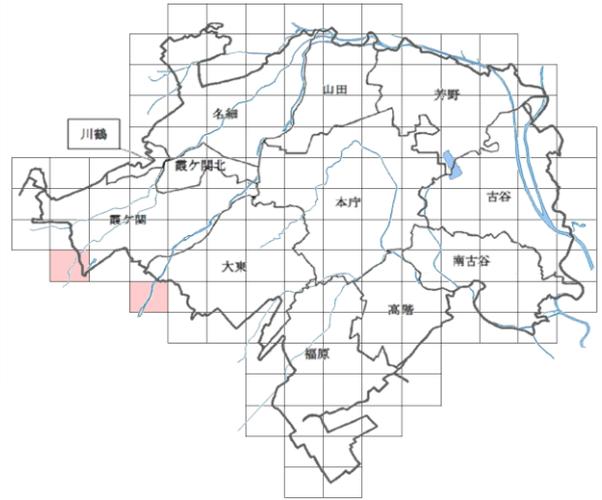
特徴

1～3月、5～10月ごろまでの期間にわたって見られる中型のカエル。体長は3～7cm。体色は赤褐色から黄土色。背側線(※1)は明瞭で、ほとんど折れ曲がりはない。「キュッキュッキュッ」と鳴く。小型の昆虫、クモなどを食べる。草地、湿地、水田などに生息する。

※1：背側線(はいそくせん) …目の後ろからお尻に向かって続く線。



ホンドキツネ



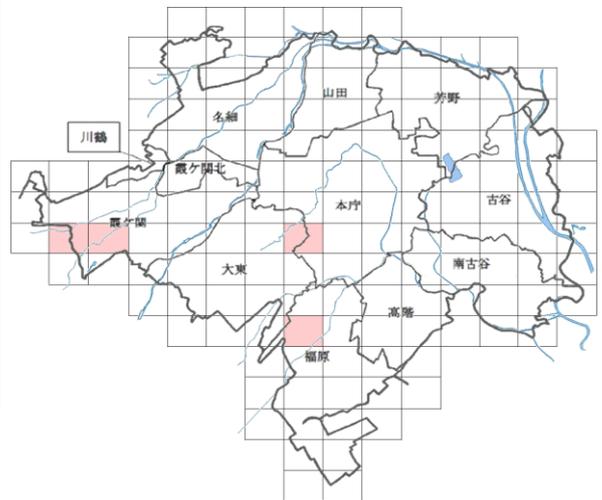
報告件数：2件 メッシュ数：2

特徴

体長は 50～70cm、尾は 30～40cm と長く、ふさふさの毛に覆われる。体色は赤みがかった黄色でいわゆる「きつね色」。腹部、頬、尾の先は白い。穴掘りが得意で、長いトンネルの巣穴を作る。子育てをするときだけ巣穴を利用する。肉食の傾向が強い雑食性で、ネズミ類、鳥類、昆虫などを食べるが果実なども食べる。森林、雑木林、農耕地などに生息する。



ホンドタヌキ



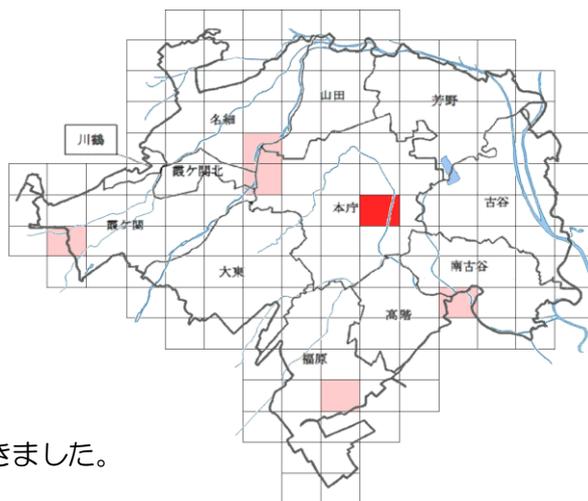
報告件数：3件 メッシュ数：2

特徴

体長は 50～60cm。四肢は短く、尾はふさふさして太い。四肢と胸部、目の周囲から顎にかけて黒い。夏と冬に換毛（※1）があり、冬の姿は太って見える。雑食性で、なんでも食べる。雑木林、里山、河川敷などに生息する。アライグマと誤認しやすいが、タヌキは足に肉球（イヌ科の特徴）を持つ。また、アライグマに見られる縞模様の尾はタヌキにはない。

※1：換毛（かんもう）…動物の毛が抜け替わること。

アブラコウモリ



※写真がないため、調査員の方にイラストを描いていただきました。

報告件数：19件 メッシュ数：6

特徴

4～10月ごろまでの期間にわたって見られる。体長は4～6cm。全体が灰褐色から黒褐色。カヤガ、ハエなどの小型の昆虫を食べる。田畑などの上空を日没後に飛び回る。屋根裏や換気口など、家屋に棲みつくのでイエコウモリともいう。市街地やその周辺などに生息する。

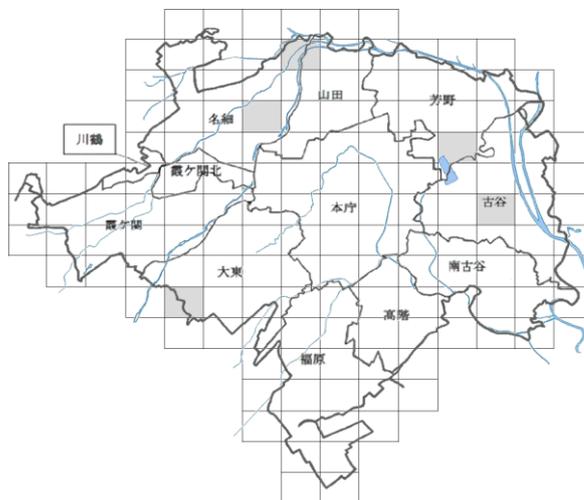
哺乳類

その他



マルタニシ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

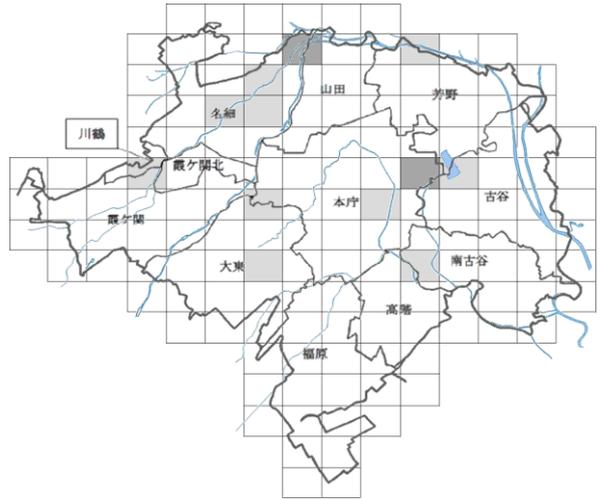
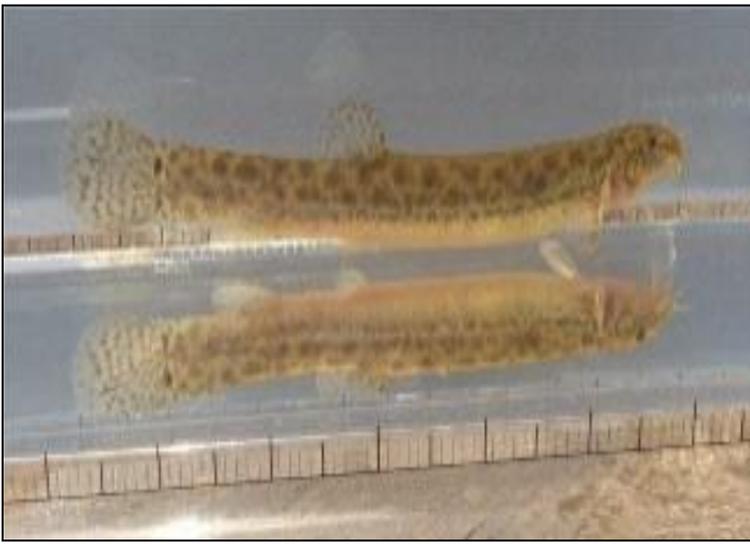


報告件数：6件 メッシュ数：5

特徴

殻の高さ6cm、直径4cmの淡水産巻貝。貝殻の色は暗緑褐色で、丸みがかった卵形で殻質は薄い。藻類や枯れ葉、生物の死体などを食べる。池沼、水田、用水路などに生息する。水槽などに入れると水質悪化を防いでくれる。

ドジョウ



報告件数：20 メッシュ数：12

特徴

全長は 10~15cm。ヒゲは 5 対で、うち 3 対は上唇にある。腹面を除き褐色で、不明瞭な斑紋をもつ。腹面は淡色で斑紋がない。体表面はぬめりがある。雑食性で、イトミミズや水生昆虫、藻類などを食べる。小河川、湿地、水田などに生息する。

◆ 生物多様性とタンポポ ◆

「生物多様性」という言葉を聞いたことがありますか？生物多様性とは「生き物たちの豊かな個性とつながり」のことです。地球上には多様な生き物が存在し、私たちの暮らしも生態系からの恵みにより支えられています。しかし、温暖化や外来生物、人の生活や開発による影響などによって、生物多様性は脅かされています。

市内で見られるタンポポには、在来のものと外来のものがあるのをご存知でしょうか？

タンポポの見分け方として、花の基部を包んでいる総苞片という緑色の部分が反り返っていないものが在来のタンポポで、反り返っているものが外来のタンポポといわれています。

また、在来種と外来種のそれぞれの特徴を持つ交雑種も生まれてきています。



カントウタンポポ（在来種）

総苞片



セイヨウタンポポ（外来種）

3-2. 希少種の調査結果

市内における5年間の調査の結果、確認された種のうち、国もしくは埼玉県がまとめているレッドデータブック等に掲載されている種を、生物多様性を守る視点から希少種として設定しました。市内で確認された希少種は、140種、1,227件となりました。

ニホンカナヘビ（地帯別危惧）、カワセミ（地帯別危惧）、コサギ（準絶滅危惧2型）などの報告が多い結果となり、これらの希少種が市内に一定数生育・生息している可能性が示されました。

【希少種の基準とした文献】

1. 環境省レッドリスト2020：（環境省、令和2年3月公表）
2. 埼玉県レッドデータブック2011植物編：（埼玉県、平成24年3月公表）
3. 埼玉県レッドデータブック動物編2018（第4版）：（埼玉県、平成30年3月公表）

絶滅危惧種とは

絶滅危惧種とは、絶滅のおそれが生じている野生生物のことを指します。その原因には、開発などによる生息地の減少や生息環境の悪化、外来種による生態系のバランスの乱れなどで生息数を大きく減らしたことが挙げられます。

レッドリストとは

レッドリストとは、絶滅するおそれのある野生生物の種の一覧です。生息環境の減少や外来生物の侵入等により、すでに絶滅したと考えられる種やこのままではいずれ絶滅してしまう可能性のある種を「絶滅」「野生絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」などのカテゴリに分類して記載しています。

レッドデータブックとは

レッドデータブックとは、レッドリストに含まれる野生生物の生息状況や保護施策などを示した資料です。日本では環境省、地方公共団体などが発行しています。埼玉県のレッドデータブックは植物編と動物編がHP上に公開されています。2019年12月現在で県のレッドデータブックには、1873種が掲載されています。

レッド（赤）の理由

1966年に国際自然保護連合（IUCN）が世界の絶滅のおそれのある野生生物についての資料を初めて作成したのが始まりです。この第1版の表紙が赤い色をしていたことや、最も絶滅の危険がある生物の解説が赤い用紙に印刷されていたことから、それ以降、レッドデータブックやレッドリストと呼ばれるようになりました。

参考 埼玉県レッドリストのカテゴリ区分

植物編

絶滅	EX	すでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	EW	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類	CE	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧Ⅱ類	VU	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	NT	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種
絶滅の恐れがある地域個体群	LP	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い種

動物編

絶滅	EX	すでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	EW	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧Ⅱ類	VU	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	NT	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
※準絶滅危惧1型	NT1	種本来の特性として脆弱な要素をもつ種
※準絶滅危惧2型	NT2	生息状況の推移から判断して種の存続への圧迫が強まっていると判断される種
情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種
絶滅の恐れがある地域個体群	LP	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い種
※地帯別危惧	RT	地帯区分でみた場合にすでに絶滅した、もしくは絶滅の恐れを危惧すべき地帯があると判断される種

※・・・埼玉県独自のカテゴリ

参考 希少種一覧（上位 50 種）

生き物調査員の皆さまから報告いただいた希少種 140 種のうち、特に報告件数の多かった 50 種について、種別、カテゴリ順に一覧にしました。このほか、市内で報告された希少種 20 種について、別ページに掲載しています（植物 10 種、鳥類 8 種、昆虫 2 種）。

植物	
キタミソウ	
キンラン	
ウメガサソウ	
ギンラン	
アマナ	
イヌスギナ	
キツネノカミソリ	
クチナシグサ	
コウホネ	
ゴマギ	
サイハイラン	
シャクジョウソウ	
シュンラン	
ノヤマトンボ	
ハグロソウ	

鳥類	
コアジサシ	
イソシギ	
オオタカ	
カンムリカイツブリ	
チュウサギ	
イカルチドリ	
オオバン	
オオヨシキリ	
カッコウ	
コサギ	
チョウゲンボウ	
ノスリ	
バン	
アオジ	
トビ	
アマサギ	
アオゲラ	
ウグイス	

カワセミ
キビタキ
ホオジロ
ホトトギス
ヤマガラ
ルリビタキ

昆虫	
アサマイチモンジ	
クルマバッタ	

クモ	
コガネグモ	

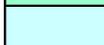
爬虫類	
アオダイショウ	
ヒガシニホントカゲ	
ニホンスッポン	
ニホンカナヘビ	

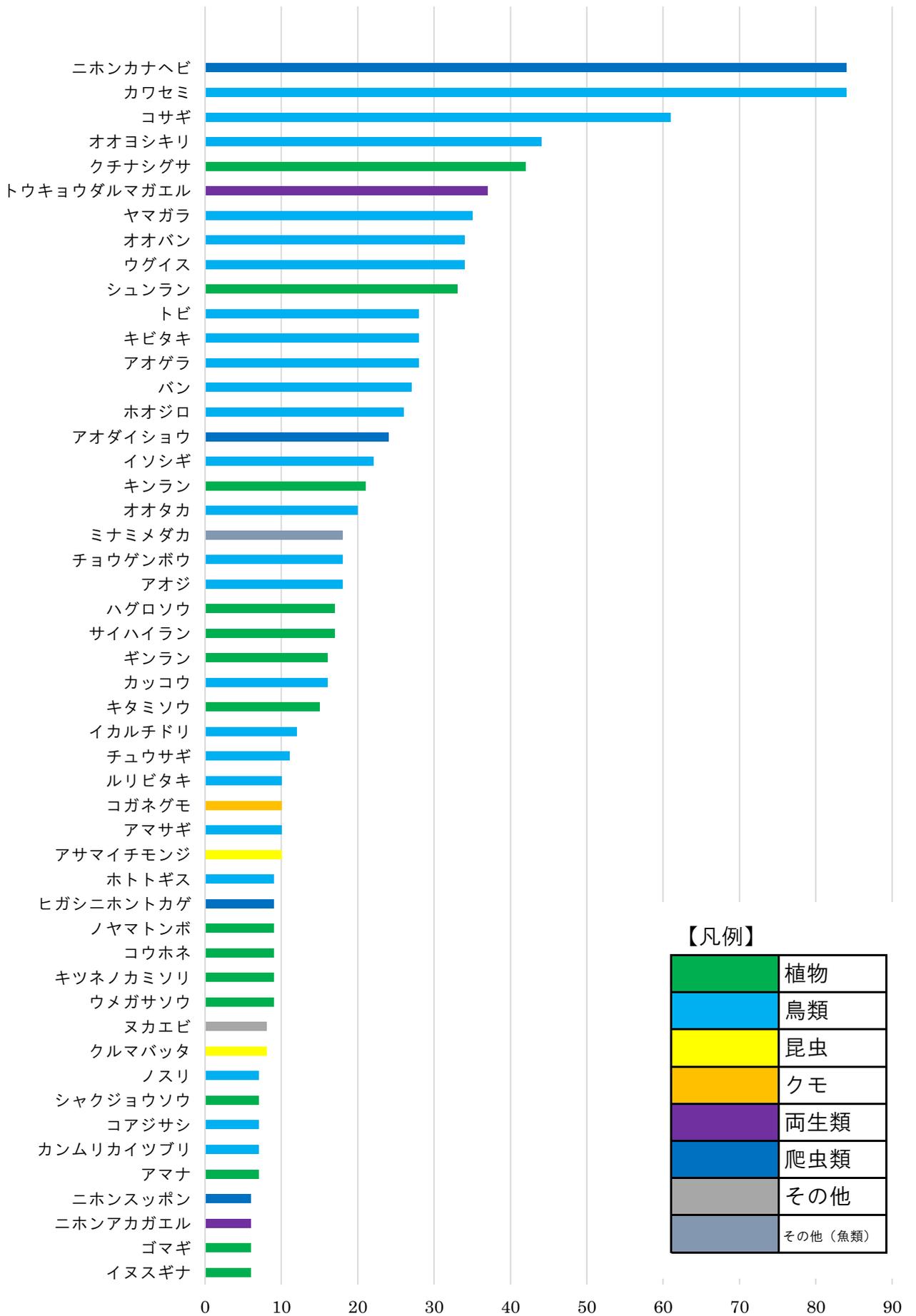
両生類	
ニホンアカガエル	
トウキョウダルマガエル	

その他	
ヌカエビ	

その他（魚類）	
ミナミメダカ	

【凡例】

	絶滅危惧Ⅰ類		準絶滅危惧1型
	絶滅危惧ⅠA類		準絶滅危惧2型
	絶滅危惧ⅠB類		情報不足
	絶滅危惧Ⅱ類		地域個体群
	準絶滅危惧		地帯別危惧



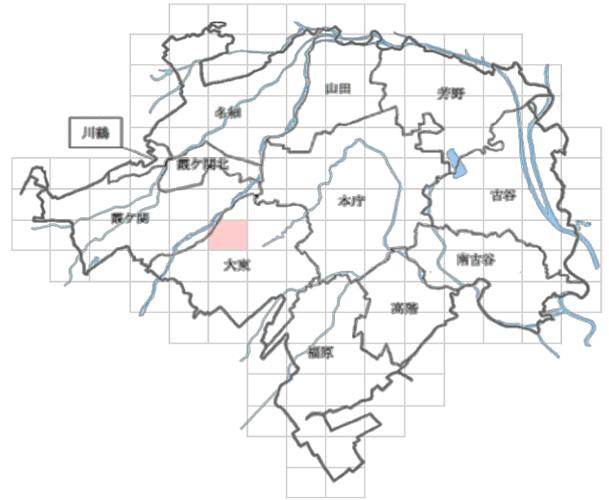
市内における希少種の報告件数（上位 50 種）

(件)



アズマイチゲ

準絶滅危惧 (NT)



報告件数：3件 メッシュ数：1

特徴

3~4月ごろに白い花を咲かせる。高さ15~20cmの多年生植物で、日当たりの良い林縁(※1)に群生する。花びらのように見えるのは萼片(※2)で、萼片の付け根と裏面は少し紫色を帯びている。春先に花を咲かせた後、地上部は枯れてなくなり、翌春まで地中の地下茎で過ごすスプリング・エフェメラルの一種。



オニノヤガラ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



報告件数：4件 メッシュ数：2

特徴

6~7月ごろに黄褐色のつぼ状の花を20~50個、茎の先端に房状につける。菌類のナラタケと共生する菌従属栄養植物(※3)であり、地下の塊根(※4)から茎を直立し、高さ40~100cmになる。山地などの樹林内に散発的に生育が見られるが、生育地は限られている。

※1：林縁(りんえん)…森林の縁で、草地や裸地に接する部分。森林内部に比べて光がよく差し込む。

※2：萼片(がくへん)…花を構成する組織で花を保護する役割のある「萼」のひとつひとつ。

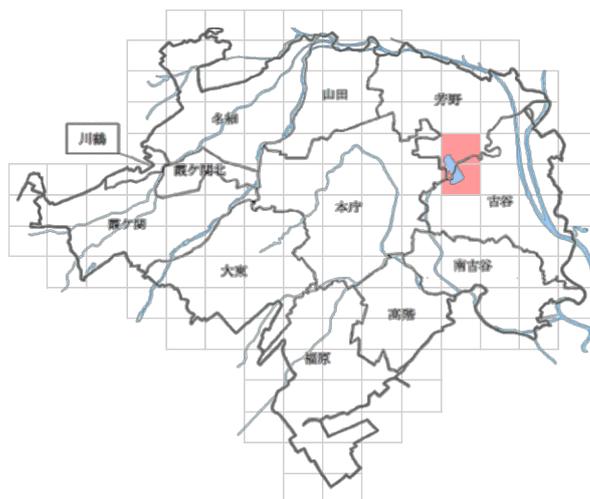
※3：菌従属栄養植物…光合成を行わず、根に共生する菌類から栄養を得て生活している植物。

※4：塊根(かいこん)…植物の根が肥大して養分を蓄える働きをする貯蔵根。普通は紡錘形のいもの形。



キタミソウ

準絶滅危惧 (NT)



報告件数：15件 メッシュ数：2

特徴

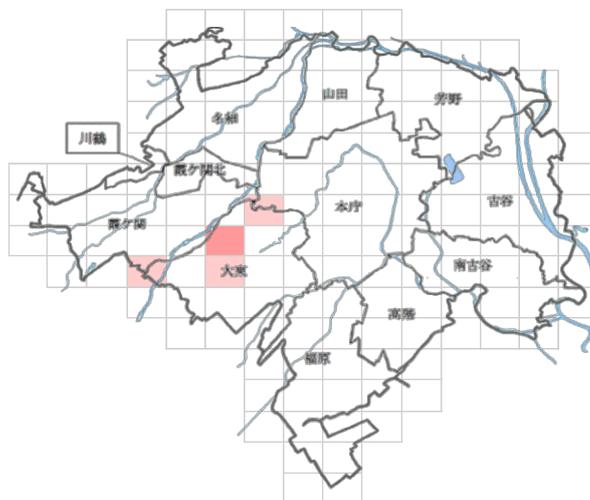
11～3月ごろに3mmほどの白い花を咲かせる。市内では伊佐沼での生育が報告されている。

池や川の水辺に生える小型の一年生植物で、河川敷内で夏季は冠水し、冬季は泥湿地になるような環境に生育する。北海道の北見地方で発見され、熊本県や埼玉県などに飛び離れて分布する。



キツネノカミソリ

準絶滅危惧 (NT)



報告件数：9件 メッシュ数：4

特徴

8～9月ごろに黄赤色の花を散形状(※1)に咲かせる。川越水上公園などでの生育が報告されている。高さ30～50cmの多年生植物で、二次林(※2)の林内や林縁などに生育する。春先に地際から帯状の葉を伸ばし、葉は夏になると枯れてしまう。葉が枯れた後に30～50cmの花茎を伸ばす。

※1：散形(さんけい)状…茎の先に柄を持つ花が放射状に多数つく、花のつき方。

※2：二次林…自然林(一次林)が伐採、山火事などによって失われた跡に、伐採木からの萌芽や土中に残った種子などから再生した林。



キンラン

絶滅危惧ⅠB類 (EN)



報告件数：21件 メッシュ数：10

特徴

4～6月ごろに黄色の花を咲かせる。高さ30～50cmの多年草で、落葉樹林の林床（※1）に生育する。葉は長楕円状の披針形（※2）で先はとがり、花は平らには開かず、上向きに半開する。和名は花の色が由来であり、鮮やかな黄色の花は雑木林の中でよく目立つ存在である。



ギンラン

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



報告件数：16件 メッシュ数：8

特徴

5～6月ごろに白色の花を咲かせる。高さ10～30cmの多年草で、落葉樹林の林床に生育する。葉は狭い長楕円形で、花は平らには開かない。キンランに似ているが、全体的に小型である。和名は花の色を由来とする。

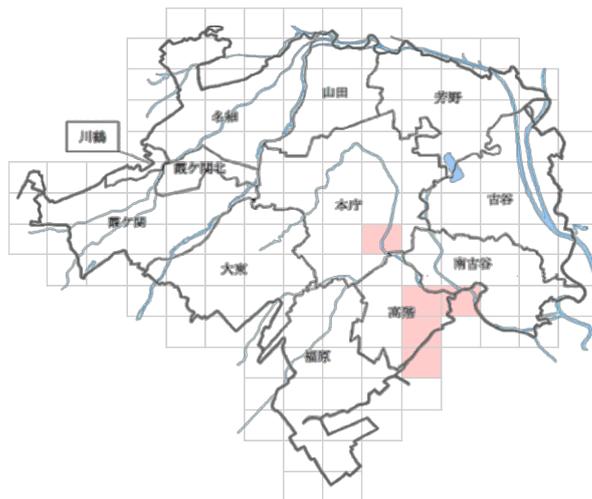
※1：林床（りんしょう）…森林の地表面。普通、光が遮られ、落ち葉などが堆積した薄暗く湿った環境。

※2：披針（ひしん）形…平たくて細長く、葉先の方がとがり、もとの方が幅の広い形。



コウホネ

準絶滅危惧 (NT)



報告件数：9件 メッシュ数：5

特徴

6～9月ごろに黄色の花を花柄の先に1個、上向きに咲かせる。平野部の池沼や河川、用水路に生育する多年生の水草。太くて白い地下茎が横にはっており、長さ20～30cmの葉は長い柄をのばして水上に出る。花びらのように見えるのは萼片で、花弁は多数、長方形で小さく外側に曲がる。



タコノアシ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



報告件数：4件 メッシュ数：4

特徴

8～9月ごろに黄白色の小さな花を花序の枝に多数つける。高さ30～85cmの多年草で、遊水池、河川敷、水田脇などの低湿地に生育する。和名は花序がタコの足のように見えることによる。晩秋になると蒴果(※1)が熟し、全体が紅葉する。

※1：蒴果(さっか) …乾いた果実の一種で、一つの果実が複数の癒着した袋状の果皮から成るもの。



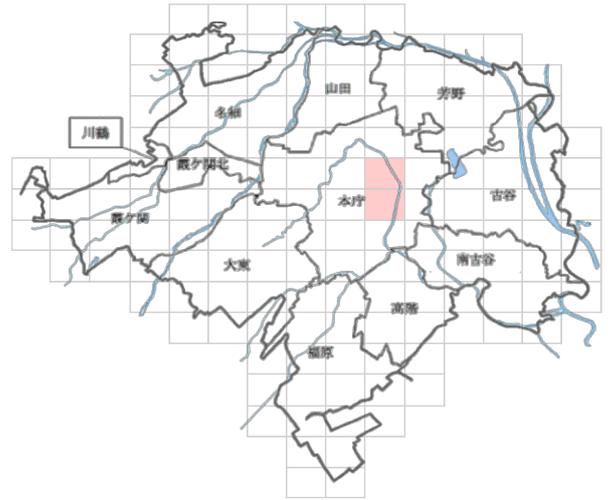
報告件数：2件 メッシュ数：2

特徴

大木では高さ 25m、直径 2.5mになる常緑高木。スギの植林内や社寺林の中に生育する。樹皮は緑灰黒色で、皮目（※1）は目立たないが、二年枝（※2）などには楕円形の皮目が多い。葉は長さ 7～20cm の卵状楕円形。4～5 月ごろに雌雄それぞれの花をつけ、堅果（※3）は翌年の秋に成熟する。

アカガシ

準絶滅危惧（NT）



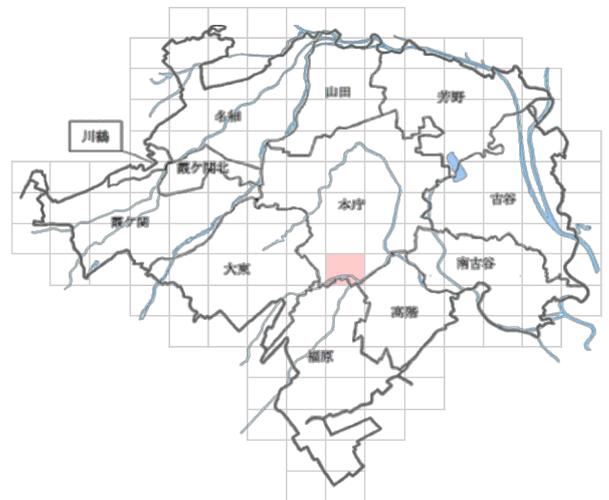
報告件数 1 件 メッシュ数：1

特徴

常緑小低木。社寺林や屋敷林のモミやツガなどの大木に寄生する半寄生植物。葉は長さ 1.5～3cm の狭い倒披針形（※4）。7～8 月ごろに葉のわきに深紅色の花を咲かせる。細長い筒形の萼は、先が 4 つに分かれて上方に反り返る。果実は球形で、翌年の 3～4 月ごろに赤く熟す。

マツグミ

絶滅危惧 I B 類（EN）

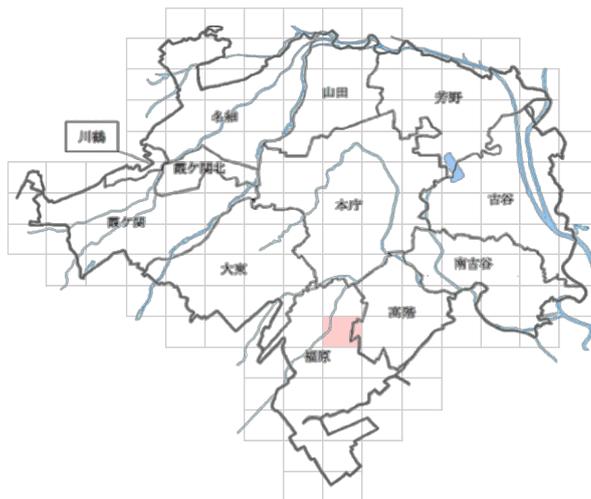


- ※1：皮目（ひもく）…樹木の幹・枝・根などにあり、表面のコルク層を破って割れ目状に見える構造。
- ※2：二年枝（にねんし）…春に伸び始めた枝を一年枝、その前の年からある枝を二年枝（前年枝）という。
- ※3：堅果（けんか）…乾いた果実の一種で、木質か革質の堅い果皮に包まれる。いわゆるドングリの仲間。
- ※4：倒披針形（とうひしんけい）…披針形を逆さにした形。葉先に近い方が幅の広い形。



アリスイ

準絶滅危惧2型 (NT2)



報告件数：1件 メッシュ数：1

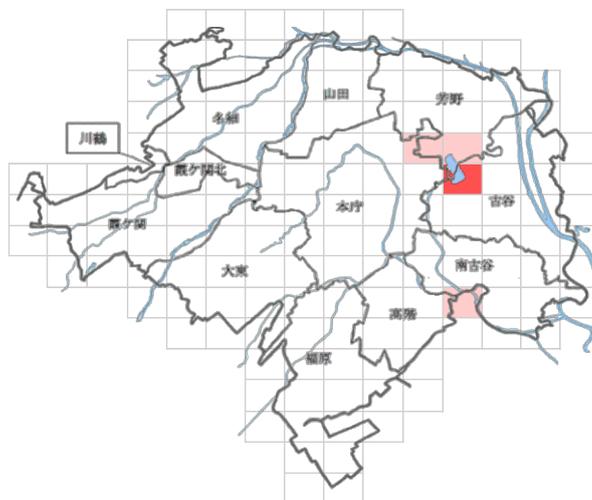
特徴

冬鳥。平地から低山の疎林（※1）、草原、ヨシ原などに生息する。全長17~18cmで、上面は灰褐色で茶色や黒の斑があり、喉から胸は黄褐色で黒い横縞がある。アリを主食としており、枯れ木に留まっている姿がよく見られるが、羽色が保護色となり見つけづらい。



イソシギ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



報告件数：22件 メッシュ数：4

特徴

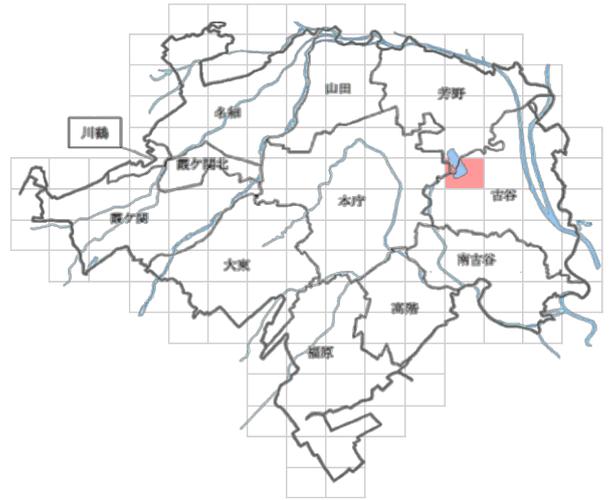
留鳥。河川や湖沼などに生息する。全長19~21cm、翼開長38~41cm。頭部から上面は褐色で下面は白い。胸の脇から翼の付け根に白い部分が食い込んでいる。歩く時に尾を上下によく振る。翼を震わせるような飛び方で「チリーリーリー」と高い声で鳴く。

※1：疎林（そりん）…樹木のまばらに生えている林。



コアジサシ

絶滅危惧 I A類 (CR)



報告件数：7件 メッシュ数：1

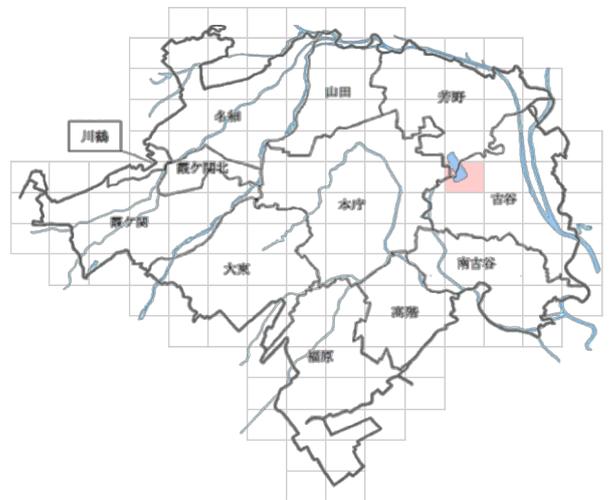
特徴

夏鳥。海岸、干潟、池沼、河川などで魚を採り、その周辺で休息する姿が見られる。全長 22～28cm、翼開長 47～55cm。翼と尾羽が長くスマートな体型。夏羽では額は白く頭部は黒色で嘴は黄色で先端が黒い。体上面は青灰色で下面は白く足はオレンジ色である。冬羽では前頭部まで白くなり嘴と足は黒くなる。はためくような特徴的な飛び方をする。



タゲリ

準絶滅危惧 2 型 (NT2)



報告件数：1件 メッシュ数：1

特徴

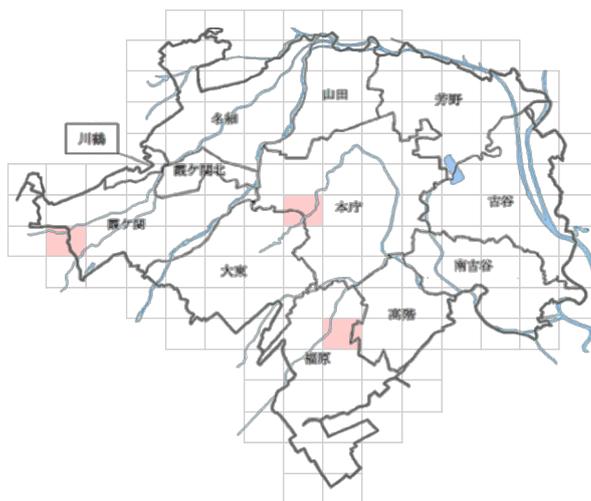
冬鳥。水田、谷津田（※1）、畑、河川、牧草地、干潟などに生息する。全長 28～31cm、翼開長 82～87cm。胸と頭上は黒く後頭部には長い冠羽がある。背と翼は金属光沢のある緑色。腹面は白く下尾筒はオレンジ色。飛翔時、翼下面の白と風切りの黒がよく目立つ。「ミュー、ミュー」と独特の声で鳴きながら、ふわふわとした特徴的な飛び方をする。

※1：谷津田（やつだ）…低い丘陵地の谷（谷津）にある水田。



ツミ

準絶滅危惧 2 型 (NT2)



報告件数：5 件 メッシュ数：3

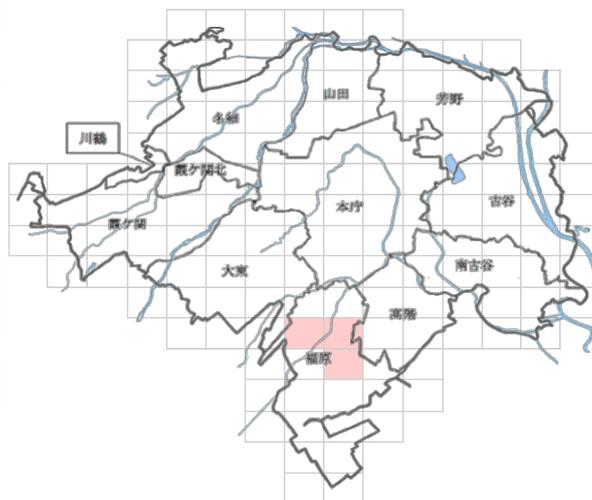
特徴

留鳥または夏鳥。平地から山地の林、市街地の公園の林などで繁殖する。オス 27cm、メス 30cm。翼開長 51～63cm。オスは頭部から上面は暗灰青色、下面はオレンジ色。メスはオスより少し大きく、上面が灰黒色で下面は白色で黒い横縞がある。小型の鳥類や哺乳類、昆虫などを食べる。



トラツグミ

準絶滅危惧 2 型 (NT2)



報告件数：3 件 メッシュ数：3

特徴

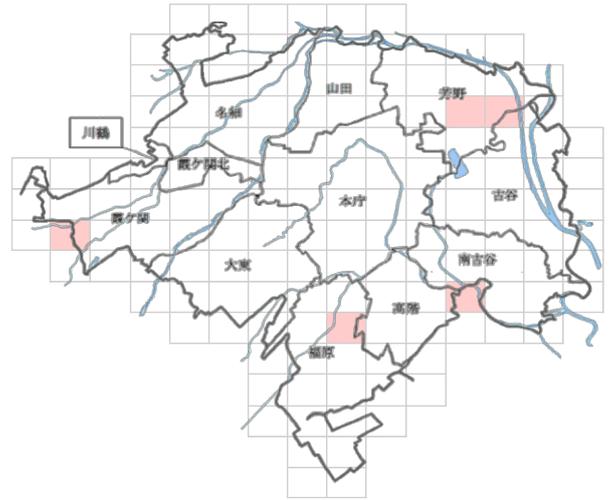
留鳥または漂鳥（※1）。丘陵帯から亜高山帯までの森林で繁殖する。冬季には、低地帯にも漂行し、市街地の公園や社寺林、人家の庭にも出現する。全長 29.5cm で、上面は黄褐色で黒色の三日月斑、下面は白く黄褐色と黒褐色の三日月斑がある。「キーン」という金属的で特徴的な鳴き方をする。妖怪の鶴（ぬえ）の正体といわれる。

※1：漂鳥（ひょうちょう）…渡り鳥に比べて小規模の季節移動をする鳥。



ノスリ

準絶滅危惧 2 型 (NT2)



報告件数：7 件 メッシュ数：5

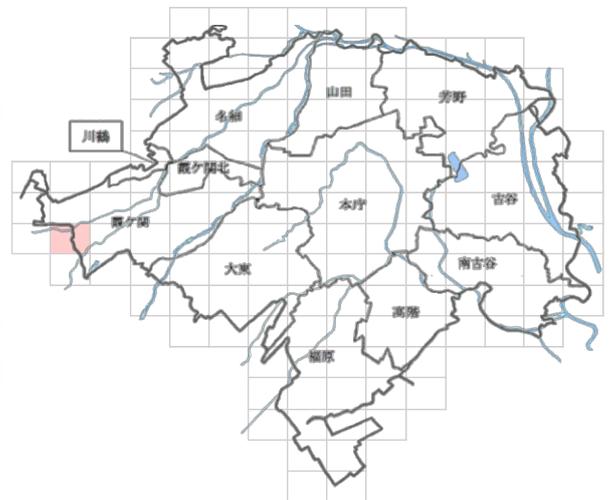
特徴

留鳥または漂鳥。台地・丘陵帯の他、低地での繁殖確認が増えている。冬は農耕地、河川敷などの見通しのよい場所で見られる。オス 50~53cm、メス 53~60cm、翼開長 122~137cm。頭から上面は褐色で下面には褐色の斑がある。翼は幅が広く下面は白いが風切りの元の部分に褐色の斑がある。また、下腹部にも褐色の幅広い斑がある。主に、ネズミやモグラなどの小型の哺乳類を食べる。



メボソムシクイ

準絶滅危惧 2 型 (NT2)



報告件数：1 件 メッシュ数：1

特徴

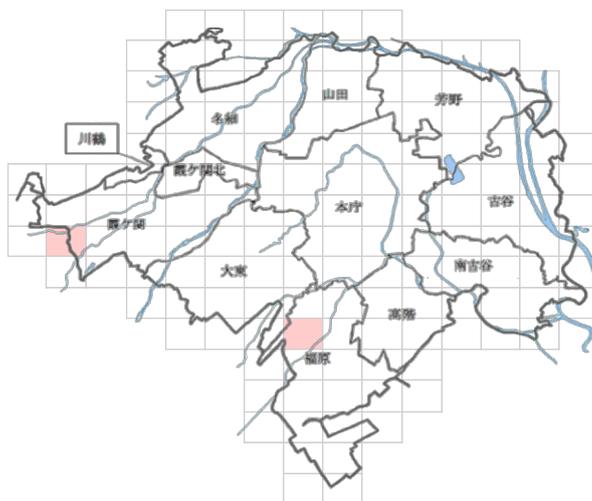
夏鳥。亜高山帯の針葉樹林に生息する。全長 12.5~13cm。上面は緑褐色、下面は灰褐色で脇が黄色い。眉斑(※1)は黄白色で長い。春秋の渡りの時期には、平地林や公園の緑地、屋敷林などでも見られる。「ゼニトリ、ゼニトリ」と聞こえる特徴的な鳴き声をする。

※1：眉斑(びはん) …目の上にある眉状に見える羽毛の部分。



サラサヤンマ

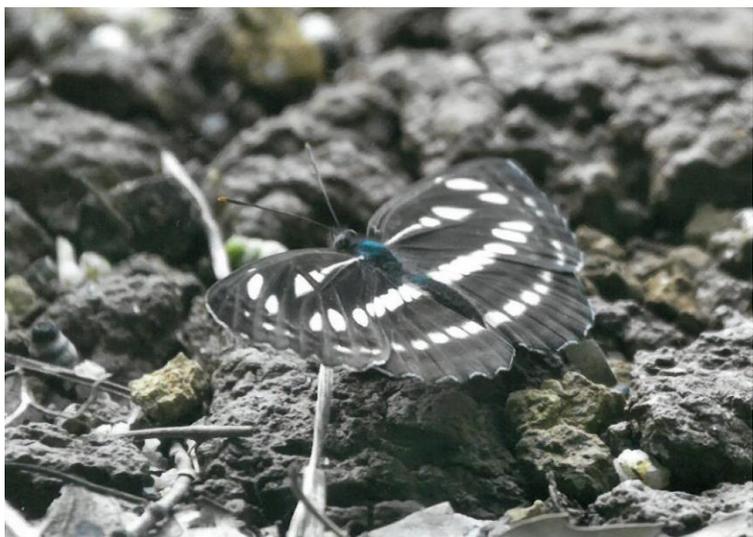
準絶滅危惧 2 型 (NT2)



報告件数：2 件 メッシュ数：2

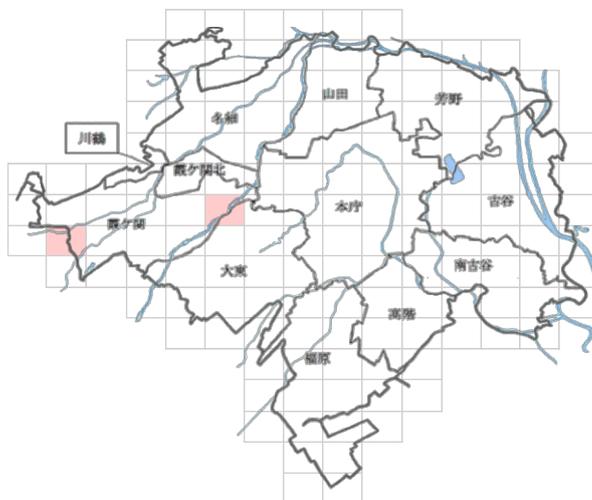
特徴

4～7 月ごろに見られるトンボで、ヤンマ科の中では小型の種。平地～山地の樹林に囲まれた木陰の多い湿地などに生息する。全長 57～68mm、後翅長 35～41mm。翅は透明で、胸部から腹部にかけて黒地に黄斑をもつ。



ミスジチョウ

準絶滅危惧 2 型 (NT2)



報告件数：2 件 メッシュ数：2

特徴

5～6 月ごろに見られる中型のチョウ。イロハモミジ、ハウチワカエデなどのカエデ科植物の生える低地～山地の雑木林や疎林沿いなどに生息する。前翅長 32～42mm、開長 55～74mm。黒褐色の羽根に 3 本の白色帯がある。翅を開いて地面などに留まることが多い。

3-3. 注意すべき外来種の調査結果

市内における5年間の調査の結果、確認された種のうち、法制度で規制を求めている特定外来生物および生態系被害防止外来種リスト等に掲載されている種を、生物多様性を守る視点から注意すべき外来種として設定しました。市内で確認された注意すべき外来種は、76種、1,764件となりました。

アライグマ（特定外来生物）、セイタカアワダチソウ（重点対策外来種）、ヒメジョオン（その他の総合外来種）などの報告が多い結果となり、特定外来生物であるアレチウリ、ガビチョウ、オオフサモなども比較的多く報告がありました。

今回報告数が少なかった外来種についても、日常的に見かけるほど数が多い種は、かえって報告されていない可能性も否定できないため、注意が必要です。

【外来種の基準とした文献】

1. 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき規制される生物のリスト
：（環境省、平成30年4月公表）
2. 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）
：（環境省、平成28年3月公表）

外来種とは

外来種とは、人為の影響によって本来の生息地域から、元々は生息していなかった地域に入り込んだ生物のことをいいます。ただし、人為的要因以外によって入り込んだ生物は外来種として扱いません（例えば渡り鳥や海流によって種子が運ばれる植物などは外来種には該当しない）。

特定外来生物とは

特定外来生物とは、もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系などに被害を及ぼすものを特定外来生物として指定し、輸入・販売・飼育・栽培・保管・運搬などが禁止されています。また、生きているものに限られ、個体だけではなく卵、種子、器官なども含まれます。

2021年8月現在で特定外来生物は、アライグマ、ウシガエル、カミツキガメなど156種が指定されています。

外来種被害予防三原則

外来種問題を引き起こさないために、私たち一人一人がとるべき姿勢を表した環境省のスローガンであり、「入れない」「捨てない」「拡げない」の三原則からなります。

1. **入れない** 悪影響を及ぼすおそれのある外来種をむやみに日本に「入れない」。
2. **捨てない** 飼養・栽培している外来種を野外に「捨てない」。
3. **拡げない** すでに野外にいる外来種を他地域に「拡げない」。

総合対策外来種（総合的に対策が必要な外来種）

国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害を及ぼしている又はそのおそれがあるため、防除、遺棄、導入、逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要。

緊急対策外来種

対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある。

重点対策外来種

甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い。

その他の総合対策外来種

産業管理外来種（適切な管理が必要な産業上重要な外来種）

産業又は公益性において重要で、代替性がなく、その利用にあたっては適切な管理が必要。

本調査の「注意すべき外来種」はここまで

定着予防外来種（定着を予防する外来種）

国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出、発見した場合の早期防除が必要。

侵入予防外来種

国内に導入されていない種。導入の防止、水際での監視等により侵入を未然に防ぐ必要がある。

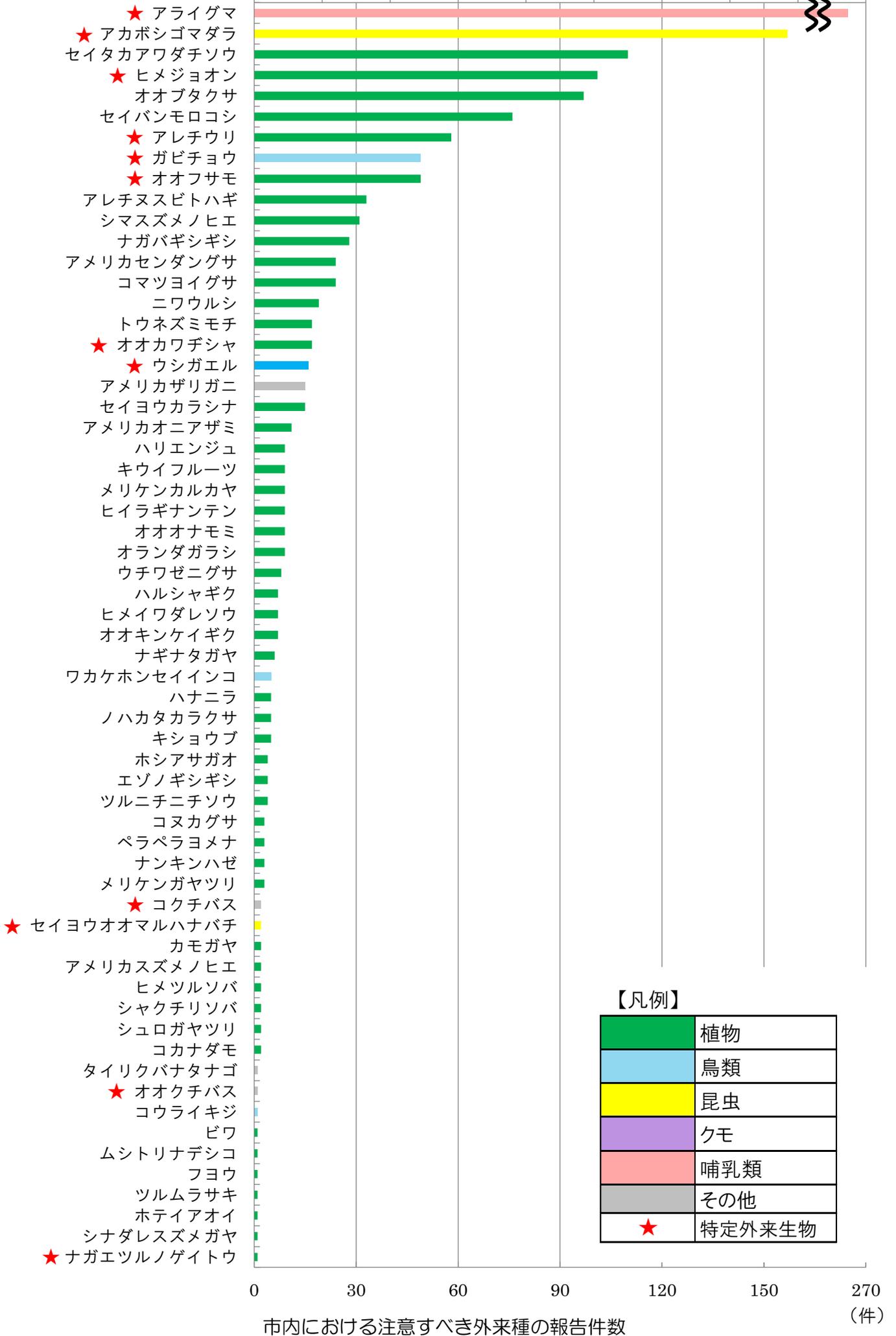
その他の定着予防外来種

国内に導入されているが、自然環境における定着は確認されていない種。

参考 注意すべき外来種一覧（抜粋）

- 緊急対策外来種
 その他の総合対策外来種
 重点対策外来種
 産業管理外来種
 特 特定外来生物

植物（50種類）	
アレチウリ	特
オオカワヂシャ	特
オオキンケイギク	特
オオフサモ	特
ナガエツルノゲイトウ	特
アメリカスズメノヒエ	
ウチワゼニグサ	
オオブタクサ	
オランダガラシ	
カモガヤ	
キウイフルーツ	
キショウブ	
コカナダモ	
コカナダモ	
コマツヨイグサ	
シナダレスズメガヤ	
シュロガヤツリ	
セイタカアワダチソウ	
ツルニチニチソウ	
トウネズミモチ	
ナギナタガヤ	
ニワウルシ	
ノハカタカラクサ	
ハリエンジュ	
ヒメイワダレソウ	
ビワ	
ホテイアオイ	
メリケンガヤツリ	
アメリカオニアザミ	
アメリカセンダングサ	
アレチヌスビトハギ	
エゾノギシギシ	
オオオナモミ	
シマスズメノヒエ	
シャクチリソバ	
セイバンモロコシ	
セイヨウカラシナ	
ツルムラサキ	
ナガバギシギシ	
ナンキンハゼ	
ハナニラ	
ハルシャギク	
ヒイラギナンテン	
ヒメジョオン	
ヒメツルソバ	
フヨウ	
ペラペラヨメナ	
ホシアサガオ	
ムシトリナデシコ	
メリケンカルカヤ	
鳥類（3種類）	
ガビチョウ	特
コウライキジ	
ワカケホンセイインコ	
昆虫（2種類）	
アカボシゴマダラ	特
セイヨウオオマルハナバチ	特
両生類（1種類）	
ウシガエル	特
哺乳類（1種類）	
アライグマ	特
その他（4種類）	
アメリカザリガニ	
オオクチバス	特
コクチバス	特
タイリクバナタナゴ	

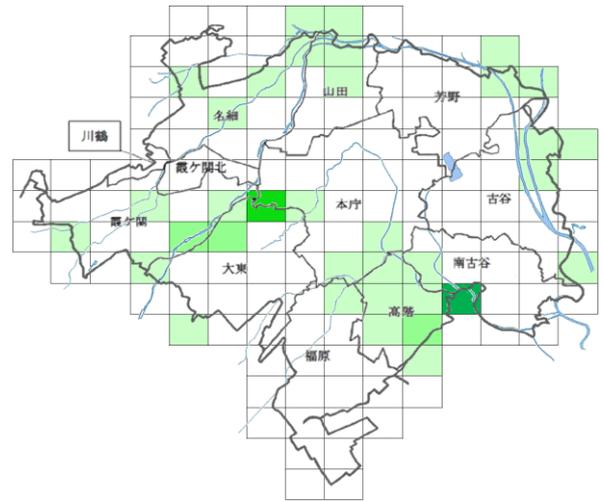


【凡例】

植物
鳥類
昆虫
クモ
哺乳類
その他
★ 特定外来生物



アレチウリ



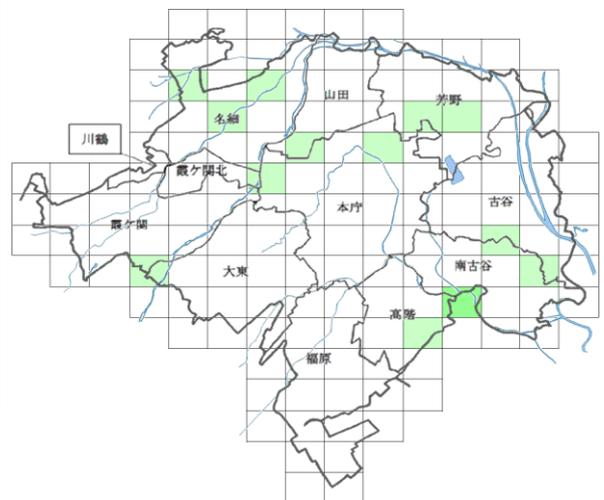
報告件数：58件 メッシュ数：36

特徴と影響

北アメリカ原産で、茎の全長が数mから数十mに達する一年生の大形つる性植物。黄白色の花を咲かせ、果実には硬いトゲがある。荒地や河川敷などで大繁茂することで、在来植物との競合（※1）、駆逐（※2）が懸念されている。飼料畑でも大発生して農業被害を生じている。残った埋土種子（※3）が次々と発芽するので、それらが結実する前に除去する必要がある。



オオカワヂシャ



報告件数：17件 メッシュ数：13

特徴と影響

ヨーロッパ～アジア北部原産で、高さ30～100cmの多年生植物。上部の葉腋（※4）から花の柄を出し、小さな淡紫色の花を咲かせる。河川、池沼、水田などに生育し、同属で準絶滅危惧のカワヂシャと交雑して雑種を形成することが確認されている。地下茎で繁殖するので、地上部だけでなく地下部もあわせて除去する必要があるが、誤ってカワヂシャを除去しないように注意。

※1：競合（きょうごう）…生息場所や餌、光などの生息条件において2種以上の生物が競い合うこと。

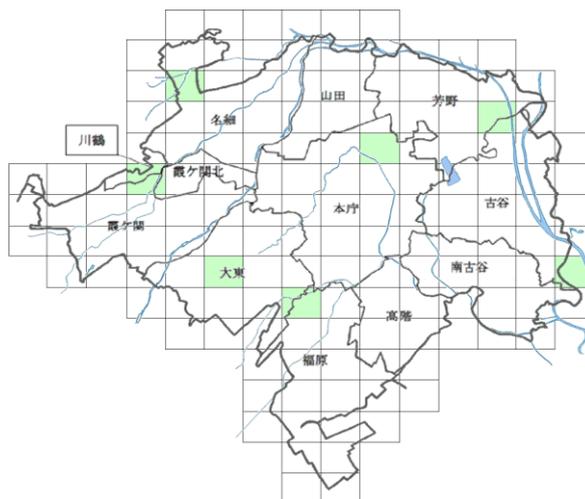
※2：駆逐（くちく）…在来の生物を捕食あるいは競合して追い出し、在来の生態系をかく乱すること。

※3：埋土種子（まいどしゅし）…発芽能力をもちながら土壤に埋もれたままの種子。

※4：葉腋（ようえき）…葉の柄の付け根の部分。



オオキンケイギク



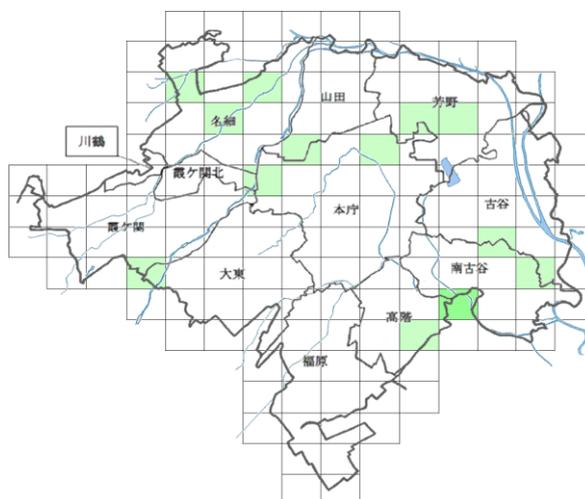
報告件数：7件 メッシュ数：7

特徴と影響

北アメリカ原産で、高さ 30～70cm の多年生植物。鮮やかな黄色の花を咲かせる。河川敷、路傍などに群生することで、在来植物との競合、駆逐が懸念されている。埋土種子は数年間生存することがあり、刈り取りに対する再生力も強く、繁殖力が旺盛で強健な植物とされる。種子だけでなく地下茎でも繁殖するため、結実前に花を刈り取ることと、抜き取りの両方を行うことが効果的。



オオフサモ



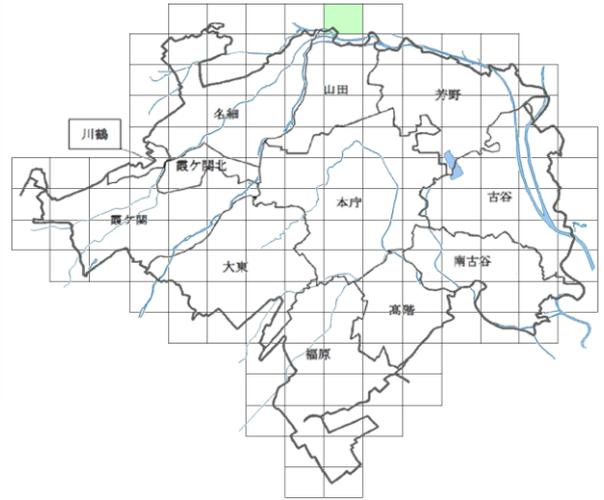
報告件数：49件 メッシュ数：10

特徴と影響

南アメリカ原産で、水面上の高さは 20～30cm、茎の全長は 1m に達する多年生の抽水植物。葉腋から柄のない小さな白い花を咲かせる。河川、池沼、水路、ため池などの浅い水域に群生し、水路の水流を妨げたり、在来植物と競合し、駆逐したりするとされる。残った地下茎から再生するので、それらも除去する必要がある。



ナガエツルノゲイトウ



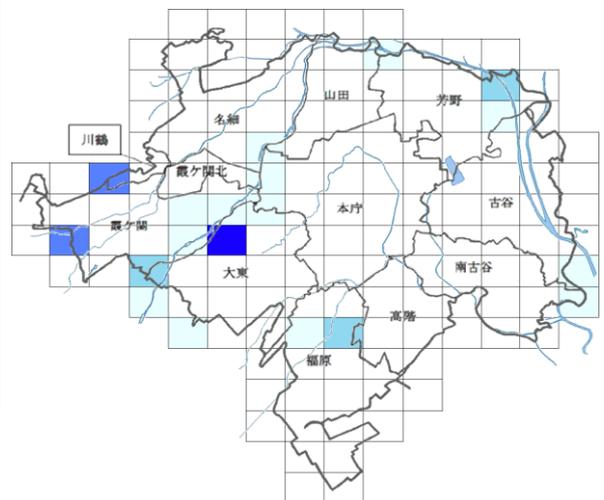
報告件数：1件 メッシュ数：1

特徴と影響

南アメリカ原産で、茎の全長は1m以上に達する多年生の抽水～湿生植物（※1）。葉の付け根から柄を出して白色の花を咲かせる。河川や池沼などで大繁茂し、水流を妨げたり、船の通行を妨げたりしている。在来植物と競合し、駆逐するおそれがある。長期間の乾燥に耐えられるので、陸上でも生育できる。茎の断片から再生するため、地下茎もすべて除去する必要がある。



ガビチョウ



報告件数：49件 メッシュ数：19

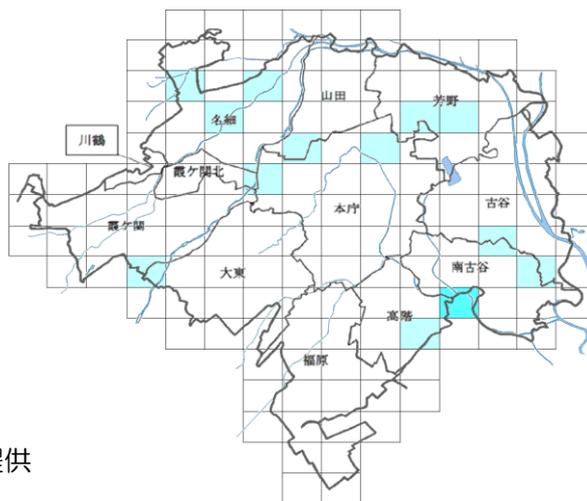
特徴と影響

インド北東部～中国南部原産の留鳥。目の周りに白い帯状模様がある。雑木林、竹林の藪などに生息する。今後、個体数が増加すれば、餌や営巣場所を巡る競争により生態の類似する在来種を駆逐するおそれがある。森林の手入れ不足や、里山の放置などはガビチョウ類が生息しやすい環境を提供することになる。間伐や森林の手入れは、その個体数を減らす意味で、対策の一つといえる。

※1：湿生植物…池や沼の付近などの湿地に生育する植物。



ウシガエル



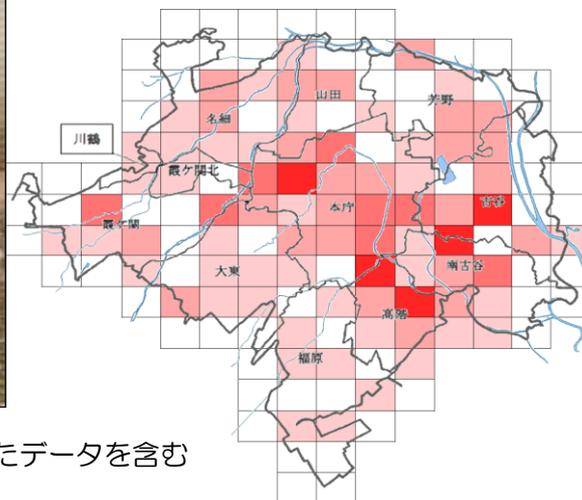
報告件数：16件 メッシュ数：12 ※写真 環境省提供

特徴と影響

アメリカ東部・中部、カナダ南東部原産で、体長15～20cmの大型のカエル。「ブォー、ブォー」と牛のような声で鳴く。河川の緩流域や、池沼に生息する。肉食性で、口に入る大きさの小動物なら何でも捕食する。希少な在来種の捕食や、在来のカエルとの競合など、生態系への影響が懸念されている。根本的な解決を図るには、個体の捕獲による駆除や、卵・幼生（※1）の除去が効果的。



アライグマ



報告件数：262件 メッシュ数：77 ※市で調査したデータを含む

特徴と影響

カナダ南部～パナマ原産で、体長は40～60cm。白地に黒のアイマスクをつけたような顔と縞模様の尾をもつ。森林、湿地、市街地などの幅広い環境に生息し、水辺を好む。木登りがうまく、家屋の屋根裏に棲みつくこともある。雑食性で、なんでも食べる。トウモロコシやスイカ、飼料、養殖魚などへの食害が全国的に深刻である。箱わななどによる捕獲駆除が行われている。

※1：幼生…胚（はい：卵や種子から発生したばかりの幼生物）から成体に至る中間の時期にあり、成体と形態や生活様式が異なる。

4. 過去5年間のイベント開催状況

【H29 年度】

■6/3（土）「かわごえ生き物調査会」 ○参加人員：21名

○講義場所：高階南公民館 ○観察場所：(仮称)川越市森林公園計画地

■7/30（日）「虫の観察会～かわごえ生き物調査会～」 ○参加人員：29名

○講義場所：南文化会館 ○観察場所：(仮称)川越市森林公園計画地

■10/8（日）「伊佐沼生き物観察会～かわごえ生き物調査会～」 ○参加人員：12名

○講義場所：農業ふれあいセンター ○観察場所：伊佐沼周辺



【H30 年度】

■7/30（日）「虫の観察会～かわごえ生き物調査会～」 ○参加人員：29名

○講義場所：南文化会館 ○観察場所：(仮称)川越市森林公園計画地

■9/29（土）「川越水上公園生き物観察会～かわごえ生き物調査会～」 ○参加人員：11名

○講義場所：川越水上公園内会議室 ○観察場所：川越水上公園内自然林遊歩道周辺



【R元年度】

■7/28（日）「虫の観察会～かわごえ生き物調査会～」

※台風の影響により中止

■9/28（土）「川越水上公園生き物観察会～かわごえ生き物調査会～」 ○参加人員：8名

○講義場所：川越水上公園内会議室 ○観察場所：川越水上公園内自然林遊歩道周辺



【R2年度】

■8/1（土）「虫の観察会～かわごえ生き物調査会～」 ○参加人員：20名

○観察場所：（仮称）川越市森林公園計画地

■9/20（日）「川越水上公園の生き物観察会」 ○参加人員：21名

○観察場所：川越水上公園内自然林遊歩道周辺



【R3年度】

■8/21（土）「虫の観察会～かわごえ生き物調査会～」

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

■9/25（土）「川越水上公園の生き物観察会～かわごえ生き物調査会～」

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

5. 参考文献・写真提供者一覧

【参考文献】

- 埼玉県 (2018) 『埼玉県レッドデータブック 2018 動物編 (第4版)』
埼玉県 (2011) 『埼玉県レッドデータブック 2011 植物編』
「環境省レッドリスト 2020 の公表について」環境省
<https://www.env.go.jp/press/107905.html> (閲覧日: 2021-12-14)
「特定外来生物等一覧」環境省 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>
(閲覧日: 2021-12-14)
「生態系被害防止外来種リスト」環境省
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html> (閲覧日: 2021-12-14)
「侵略的な外来種」環境省 <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html>
(閲覧日: 2021-12-14)
かわごえ環境ネット (2021) 『新訂版 川越の自然』
林弥栄 編・解説 (1990) 『日本の樹木』山と溪谷社
林弥栄 編・解説 (1990) 『日本の野草』山と溪谷社
大場達之 編・解説 (2000) 『野の植物誌』山と溪谷社
大場達之 編・解説 (2000) 『山の植物誌』山と溪谷社
岩瀬徹 (1999) 『野草・雑草観察図鑑 身近で見る 430 種のプロフィール』成美堂出版
埼玉県野鳥の会 編 (1996) 『鳥 630 図鑑 A guide for bird lovers』財団法人 日本鳥類保護連盟
第43回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」埼玉県実行委員会 (1989) 『バードランドさいたま 埼玉の野鳥』
高木清和 (2003) 『フィールドのための野鳥図鑑 野山の鳥』山と溪谷社
高木清和 (2002) 『フィールドのための野鳥図鑑 水辺の鳥』山と溪谷社
今森光彦 (1999) 『野山の昆虫』山と溪谷社
今森光彦 (2000) 『水辺の昆虫』山と溪谷社
北隆館 (1995) 『原色日本動物図鑑』
内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎 (2002) 『決定版 日本の両生爬虫類』平凡社
富田京一 解説 (2019) 『日本のカメ・トカゲ・ヘビ』山と溪谷社
奥山風太郎 解説 (2002) 『日本のカエル+サンショウウオ類』山と溪谷社
池田清彦 監修・DECO 編 (2006) 『外来生物事典』東京書籍
多紀保彦 監修著・自然環境研究センター 編 (2008) 『日本の外来生物 決定版』平凡社

【写真提供者一覧】

- ・かわごえ環境ネット
- ・賀登 環
- ・過 昌司
- ・宮澤 宏次
- ・太田 信行
- ・菊地 節子
- ・鈴木 圭治

用語解説

用語解説

※生き物のイラストはP.73に掲載しています。

【植 物】

一年草

種子が発芽・成長し、その年のうちに開花・結実して枯れる植物。

二年草

種子が発芽・成長し、開花・結実して枯れるまで2年にわたる植物。

多年草

茎の一部、地下茎や根等が枯れずに残り、複数年にわたって成長を続ける植物。

～葉の名称～

葉身（ようしん）

表皮、葉脈、葉肉からなる葉の主要部分。

葉柄（ようへい）

葉身と茎の間の部分。

托葉（たくよう）

葉柄またはその基部につく葉状片。

葉縁（ようえん）

葉身の周縁部、へり。様々な形状がある。

- ・鋸歯（きょし） 葉の縁の、のこぎり状に切れ込んだギザギザのこと。
- ・全縁（ぜんえん） 葉の縁が滑らかで、ギザギザのないこと。

葉脈（ようみゃく）

葉に見られる維管束の筋。水分や養分を運ぶ通路の役割がある。

～花の名称～

雄しべ（おしべ）

花粉をつくる器官。

- ・葯（やく） 雄しべの先についていて、花粉を作る袋。
- ・花糸（かし） 葯を付ける細い柄の部分。

雌しべ（めしべ）

種子をつくる器官。

- ・柱頭（ちゅうとう） 雌しべの頂部。花粉のつくところ。
- ・花柱（かちゅう） 雌しべの柱頭と子房の間の部分。
- ・子房（しぼう） 雄しべの下部の膨らんだ部分。中に胚珠がある。受精後、胚珠は種子になり、子房は果実となる。

花被（かひ）

花弁と萼をあわせた呼び方。

- ・花弁（かべん） 花びらのこと。
- ・萼（がく） 花弁の外側にある部分。個々を萼片という。

花床（かしょう）

花弁や雌しべ、雄しべなどを支えている部分。花托（かたく）ともいう。



花柄（かへい）

先端に花をつける柄の部分。

苞（ほう）

花の蕾（つぼみ）や花序を包む葉のこと。特に、花序の基部につくものを総苞（そうほう）、その一つ一つを総苞片という。

花序（かじょ）

花をつけた茎または枝。茎や枝につく並び方を指すこともある。

【鳥 類】

雨おおい（あまおおい）

翼の前半部にあり、風切羽を上下からおおうように生えている羽毛。風切羽が濡れるのを防ぐ役割を持つ。

風切羽（かざきりばね）

翼の後方に整列している一連の羽根。羽ばたくことで推進力と揚力を生む。接続している骨を基準として、翼の先端側から順に細分される。

- ・初列風切（しょれつかざきり） 翼の最も外側に位置し、羽ばたくことで推進力を得る。
滑空時には、次列風切と一体化し、揚力を得る。
- ・次列風切（じれつかざきり） 主に揚力を得る。
- ・三列風切（さんれつかざきり） 翼と胴体上面の気流を整え、抵抗を減らし、揚力を増す働きを持つ。

【昆 虫】

複眼（ふくがん）

節足動物等に見られる、多数の小さな個眼が束状に集まった目。物の形や動きの識別ができ、昆虫では紫外線や偏光も識別する。

単眼（たんがん）

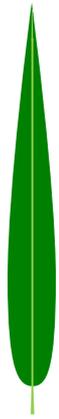
節足動物、特に昆虫に見られる、小型で単純な形の目。昆虫には大形のよく発達した複眼があり、この単眼をあわせ持つものが多い。

口吻（こうふん）

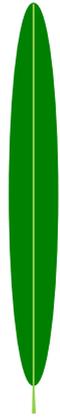
吸収管ともいう。チョウやガなどに見られる、花の蜜や水分を吸うための長いストロー上の口。



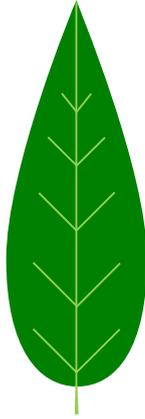
【葉の形】



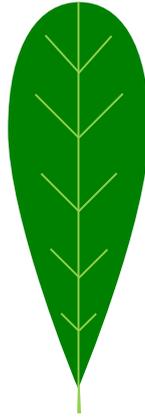
しんけい
針形



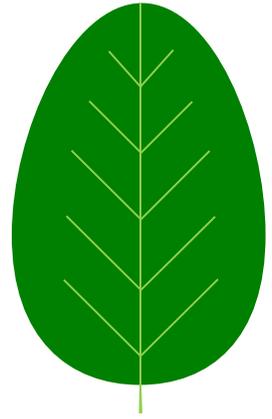
せんけい
線形



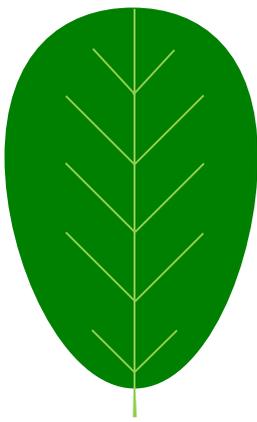
ひしんけい
披針形



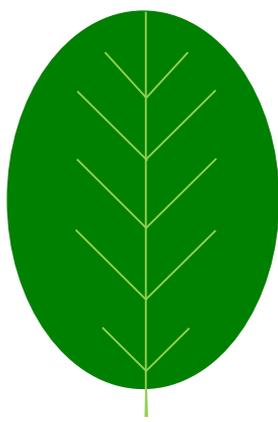
とうひしんけい
倒披針形



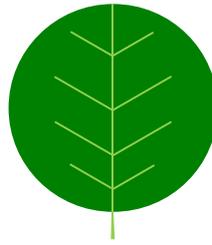
らんけい
卵形



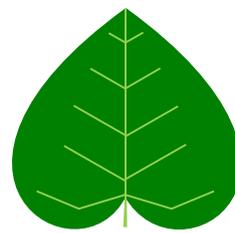
とうらんけい
倒卵形



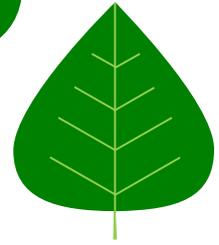
だえんけい
楕円形



円形

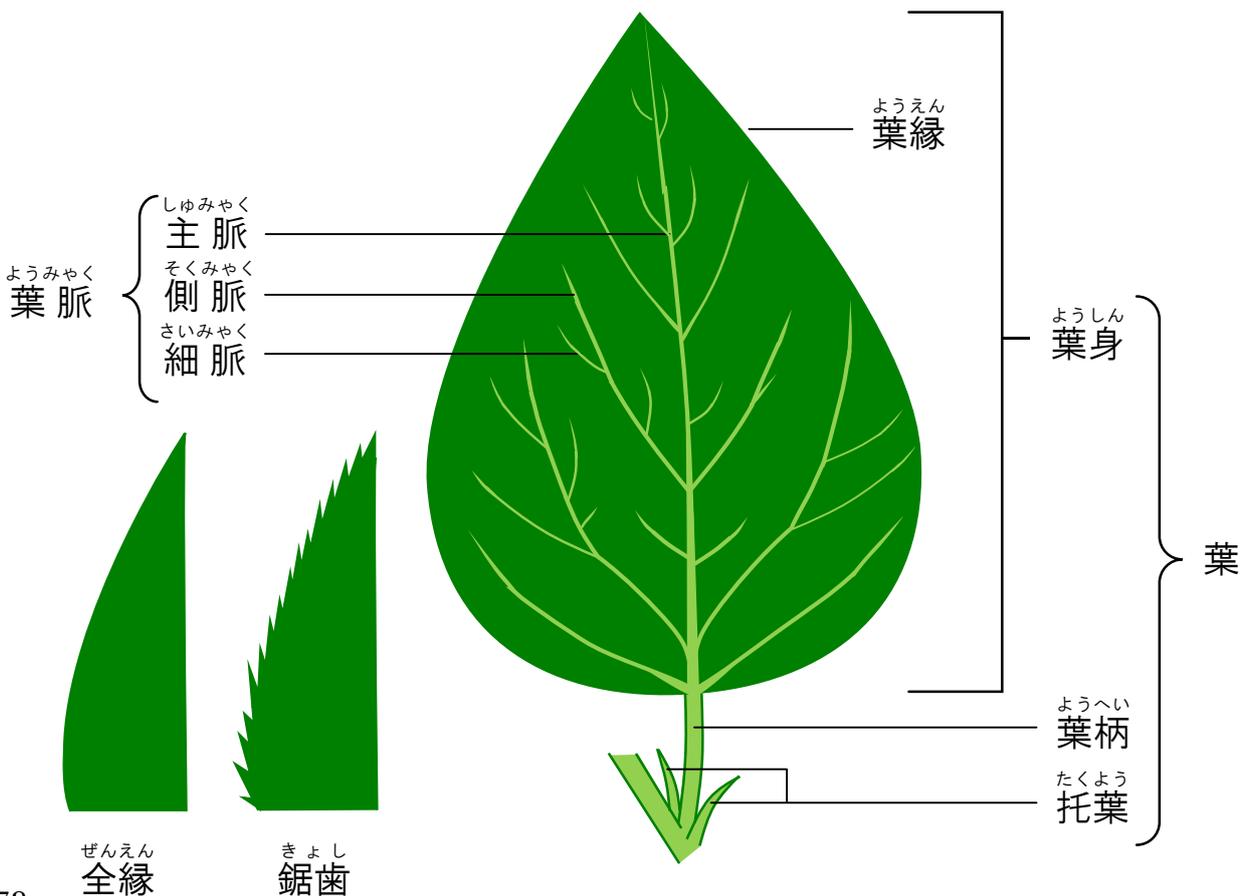


心形

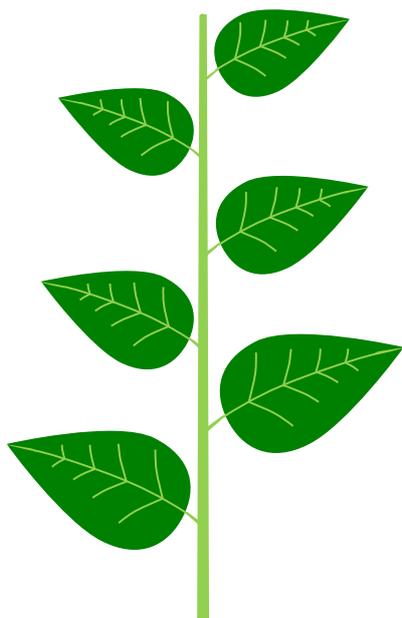


三角形

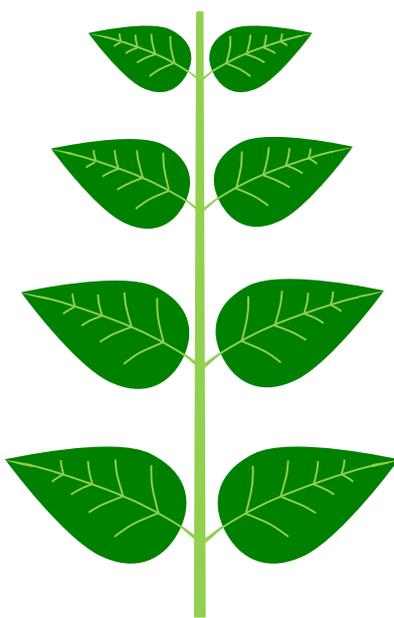
【各部の名称】



【葉のつき方】



ごせい
互生

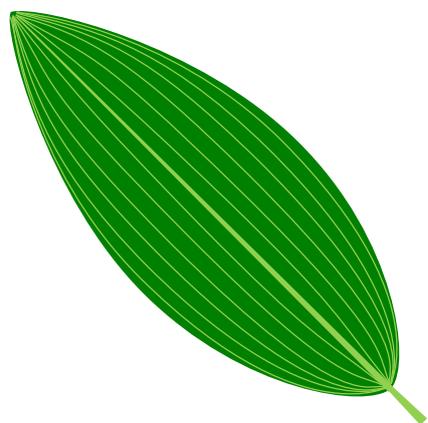


たいせい
対生

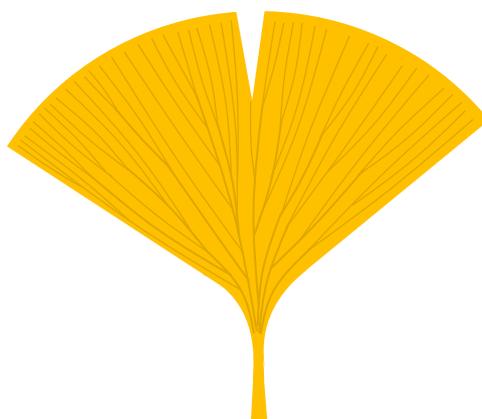


りんせい
輪生

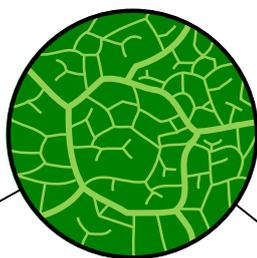
【葉脈】



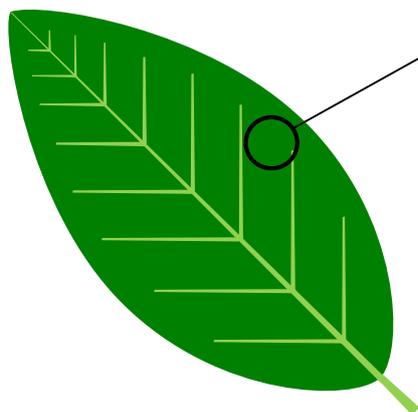
へいこうみやく
平行脈



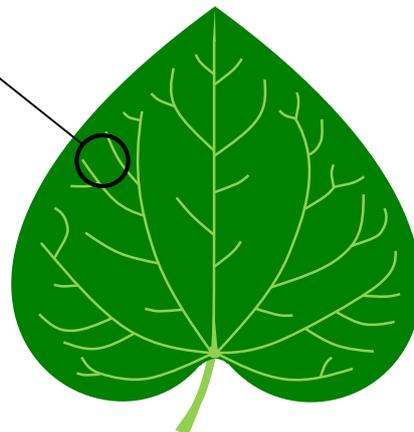
ふたまたみやく
二又脈



もうじょうみやく
網状脈

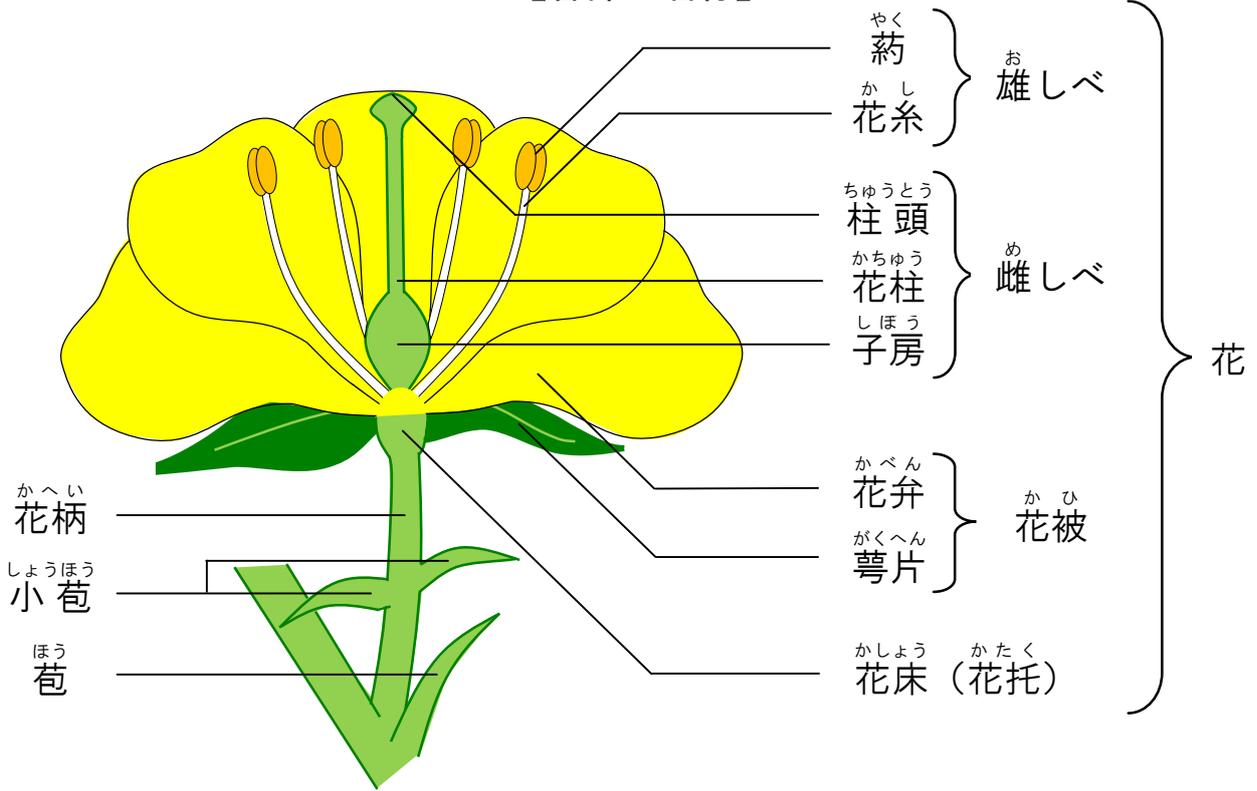


うじょうみやく
羽状脈

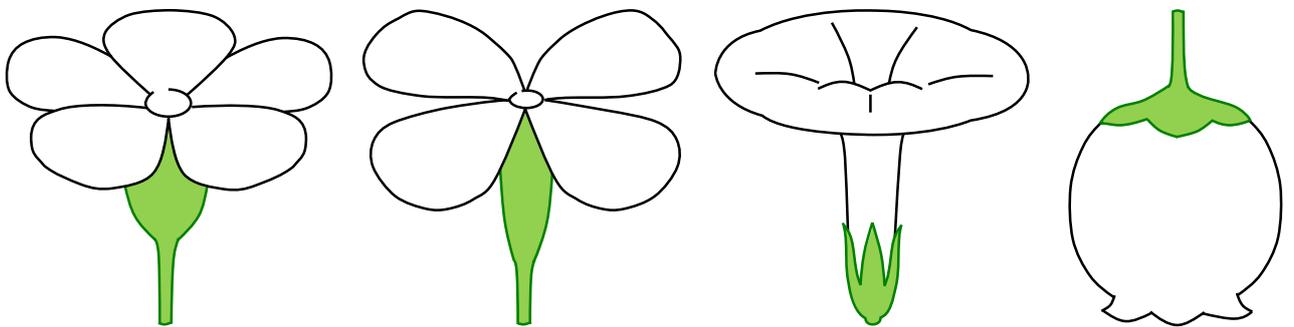


しょうじょうみやく
掌状脈

【各部の名称】



【花の形】

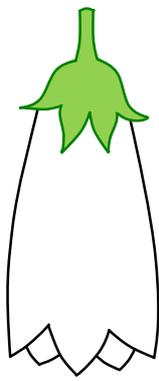


車形 (輪形)

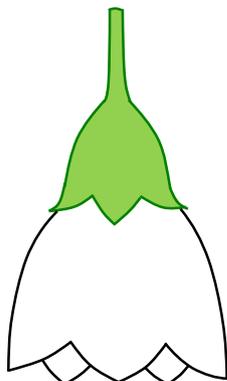
十字形

ろうと形

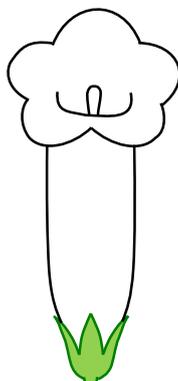
つぼ形



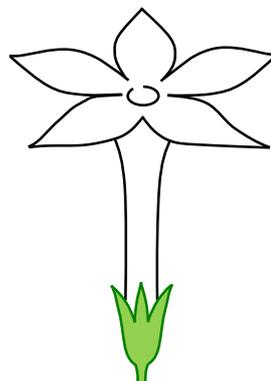
鐘形



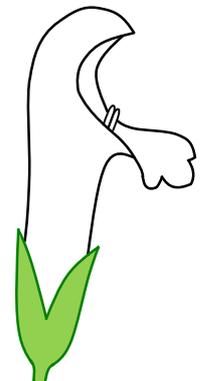
杯形



管形

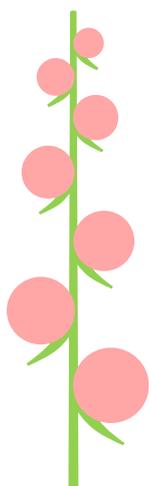


高杯形

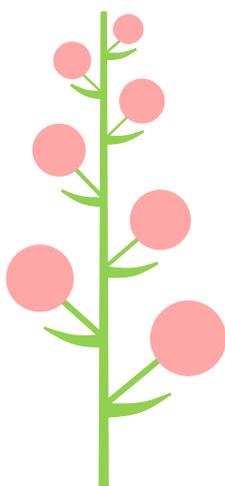


唇形

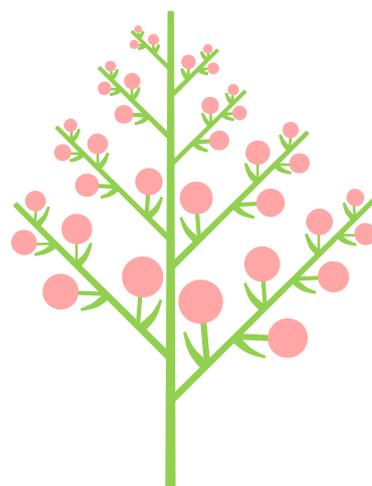
【花序】



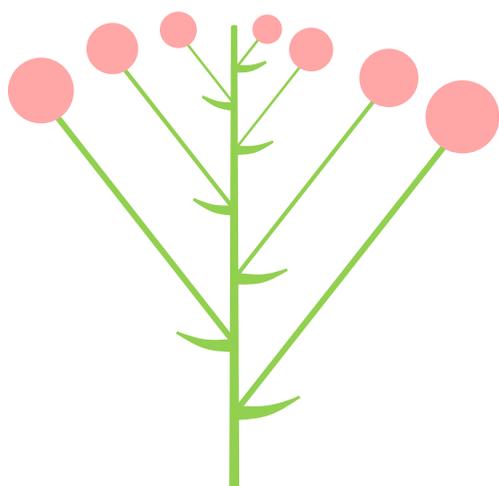
すいじょうかじよ
穂状花序



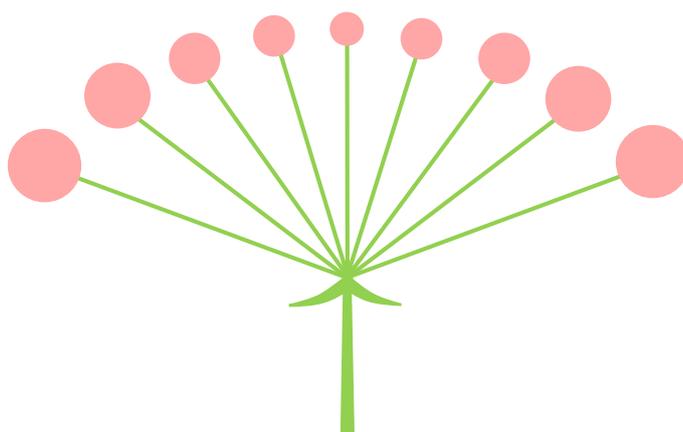
そうじょうかじよ
総状花序



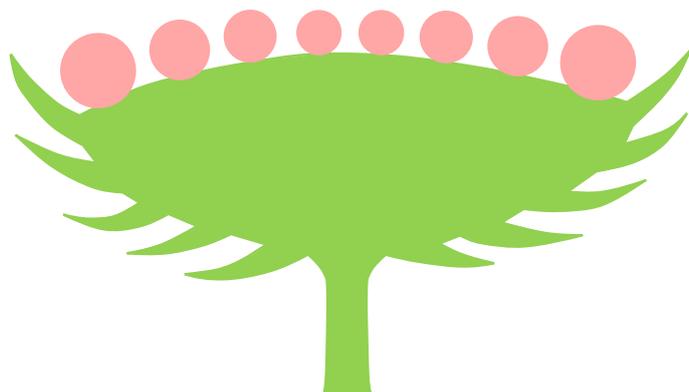
えんすいかじよ
円錐花序



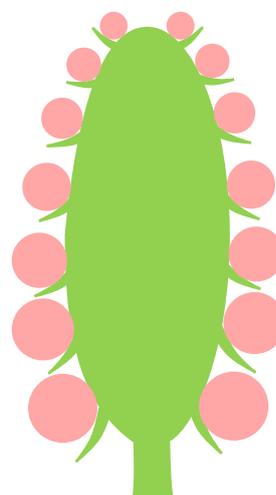
さんぼうかじよ
散房花序



さんけいかじよ
散形花序

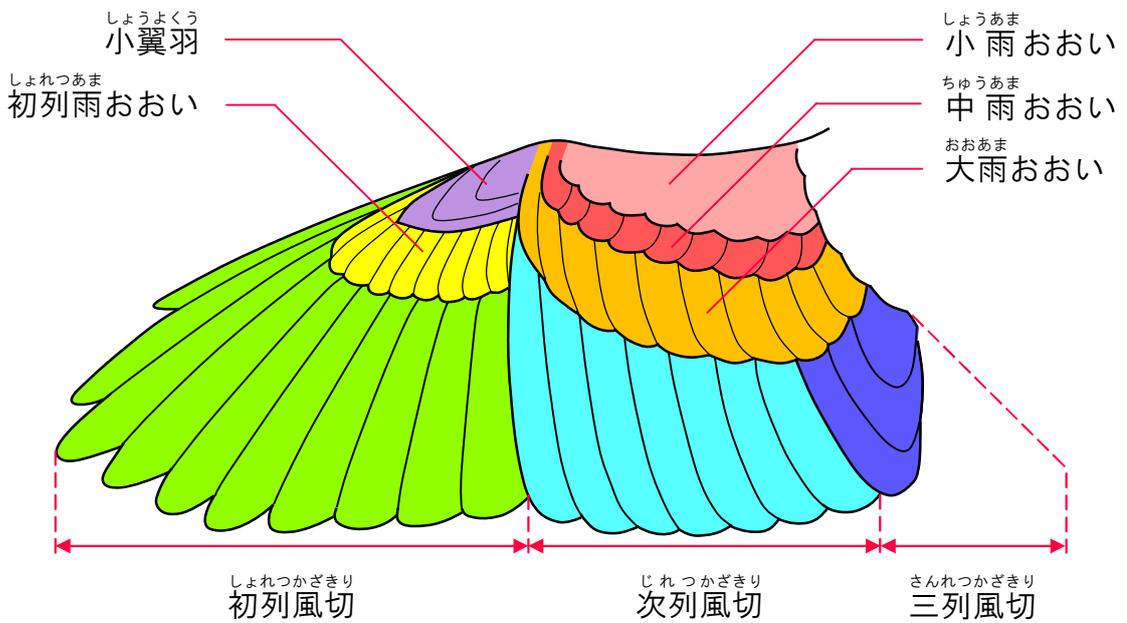
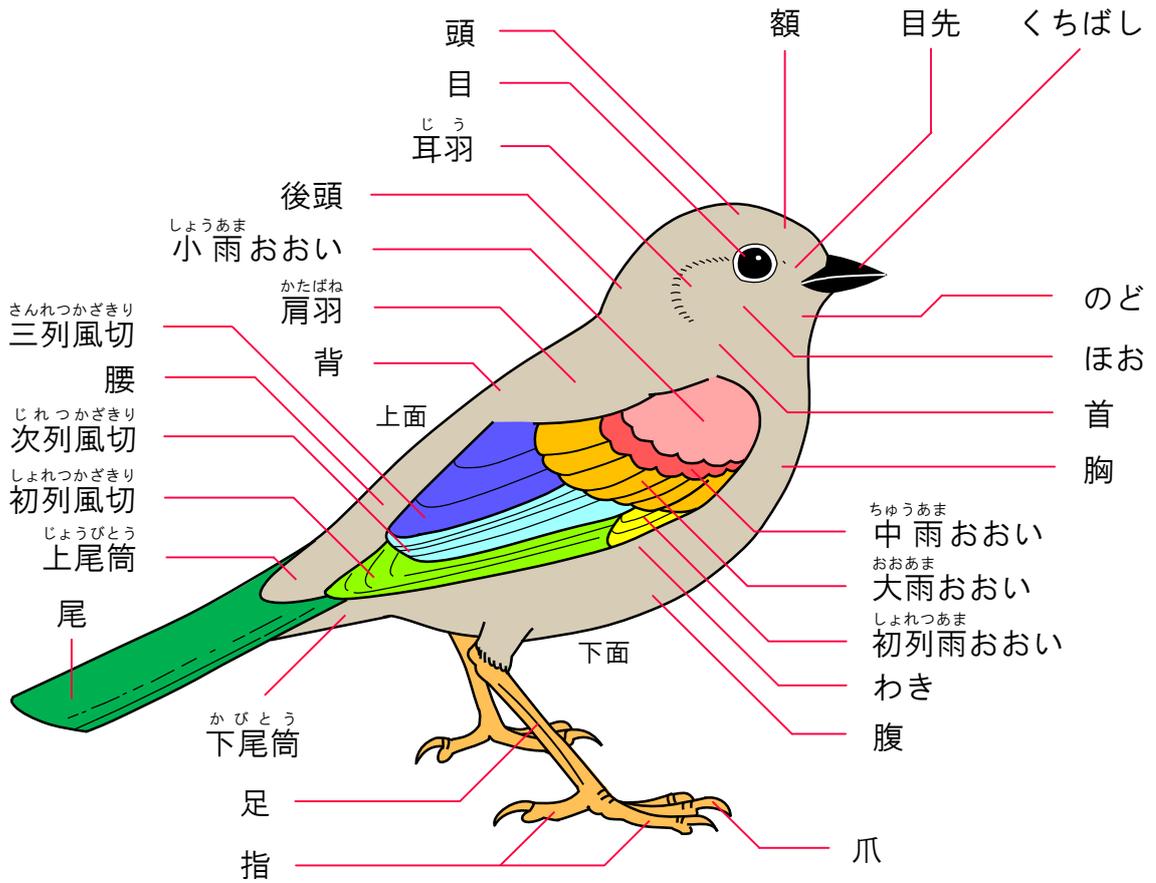


とうじょうかじよ
頭状花序



にくすいかじよ
肉穂花序

【各部の名称】



【各部の名称】

